



117
1352
3

經濟錄卷第六

信陽 太宰 純 撰

祭祀

祭祀トハ、外神ヲ祭リ、先祖ヲ祭ル、皆コレヲ祭祀トイフ、左傳ニ國
 之大事、在祀與戎ト云リ、祀ハ祭祀ナリ、戎ハ
 ヲ國ノ大事トス、天子ハ天地ヲ祭リ、天下ノ名山
 ヲ祭リタマフ、諸侯ハ社稷ヲ祭リ、名山、大川ノ國內ニ在ルヲ祭ル、
 大夫ハ五祀ヲ祭ル、社ハ土ノ神ナリ、稷ハ五穀ノ神ナリ、五祀トイ
 フハ、戸ノ神、竈ノ神、門ノ神、行ノ神、中雷ノ神ナリ、行ハ道ナリ、
 中雷ハ家ノ中ノ庭ナリ、凡祭ハ天子トイヘドモ、必親コレヲ行ヒ

卷第六

祭祀

卷第六

卷第六

中雷ハ家ノ中ノ庭ナリ
 凡祭ハ天子トイヘドモ必親コレヲ行ヒ
 行ハ道ナリ
 行ノ神
 中雷ノ神
 門ノ神
 竈ノ神
 戸ノ神
 五祀トイフハ
 五穀ノ神
 土ノ神
 社ハ土ノ神ナリ
 稷ハ五穀ノ神ナリ
 社稷ヲ祭リ
 諸侯ハ社稷ヲ祭リ
 天子ハ天地ヲ祭リ
 天下ノ名山ヲ祭リ
 皆コレヲ祭祀トイフ
 左傳ニ國之大事
 在祀與戎ト云リ
 祀ハ祭祀ナリ
 戎ハ

タニフ況ヤ諸侯以下ハ勿論ナリ凡^{オコリ}天地ノ間ニ有ラユル事トイフ
者人ノナス事ノ外ハ悉^{オトク}神ノ所為ナリ人ノナス事モ人カヲ盡シタル
上ニ其事ノ成就スルト成就セザルトハ神ノ助ニ依ルナリタトヘバ農
夫ノ耕作ヲ勤テ少モ懈^ケ怠^{タイ}セズ精^{シヨク}カヲ盡シタルニテ穀^{コク}ニ孰^{シク}不
孰^{シク}アリ年ニ豐凶アルハ天ニ懸^{イカ}リテ如何スヘキ
是ニ因テ古ノ先王ハ神ヲ祭ルコトヲ重シク
サニ^ハぐノ祭ヲナシテ神ヲ敬ヒ德ニ報ヒ年ヲ祈リ^ハテ禳^{ハラ}ヒ
國家安寧ニ萬民^ユ樂^{ラク}センコトヲ願ヒタニ^ツ日本ノ人吾國
ヲ神國ト稱スレドモ祭祀ノ禮ハ粗^ソ略^{リョク}ナルコト甚シ^ク第一^ニ天
下ニ社稷ヲ建テズ中華ニテハ天子ノ社ヲ太社ト^シ言^フハ土

國社トイフ天子モ諸侯モ必自身ニコレヲ祭ルタラ^フ森^シク^シニ民
ノ家二十五戸ホド有ル小キ里ニモ社ヲ建テ仲春仲秋兩度社日
ニ里民コレヲ祭ル社日ハ春分秋分ノ前ニテモ後^{ツチノエ}ニテモ近^チキ^ク戊ノ日
ナリ土ハ萬物ノ生ジテ人ヲ養フ物ナリ吾人ノ今日安^{ワレヒト}履^ヒスル所ナリ
五行ノ中ニテ土ノ德莫^{バク}大ナリ是ニ因テ其德ニ^ツ又^ニ異國
ルナリ然ルヲ日本ニテハ社ノ祭ヲ行ハズ是國家ノ^ツ又^ニ異國
ニテハ旅行スルニ祖道トテ出門ノ祭ヲナス祖ハ道ノ神^ツ又^ニ異國
ルニ軍ノ神ヲ祭リ馬ノ神ヲ祭ル軍ノ神ハ^ツ又^ニ異國
トイフ星ナリ箇様ノ祭ハ人事ノ重キ者ナリ此外小事ニモ^ツ又^ニ異國
ノ祭アリ神ヲ敬ヒ祭ヲ行フコト吾國ヨリモ甚シ^ク又日本ニテハ天子

諸侯自身ニ祭ヲ行ヒタマフコト無シ。巫祝ノ徒ニ任セテ行ハシメテ自身ニ齋戒ヲモシタマハズ。是甚粗略ナリ。何ニテモ祈禱ノ事甚薄屠巫祝修驗等ヲ憑テ其法ヲ行ハシメテ自身ニ曾其事ニ類カラズ。凡神ヲ祭ルハ自身ニ齋戒沐浴シ衣服ヲ改メ不淨ヲ未承誠敬ヲ盡サズシテハ神ノ納受アルコト無シ。是ヲ如在ノ如ク在ノ如ク在ノ如クニ思テ敬フナリ。

○凡天地山川社稷五祀ノ類ヲ神トイフ。天神地ヲ分ケタル名目ナリ。神トイフハ通名ナリ。人ノ死シタル神靈ヲ鬼トイフ。合セテ言ハバ鬼神トイフ。凡鬼神ヲ祭ルニハ己ガ祭ルベキ鬼神ト祭ルニジキ鬼神トテ能ク分別スルコト禮法ノ肝要ナリ。

神トイフハ聖人ノ定置キタマヘル分ナリ。天子ハ天下ニ主シ。天子有テモ鬼神ハ皆祭リタマフベキナリ。然レドモ其祭リタマフベキ分ヲ定テ是ヲ祀典トイフ。諸侯ヨリ下ハ天子ヨリ命セラレテ祭ルベキ鬼神ニ制限アリ。是ヲ命祀トイフ。命祀ノ外ハ祭ルベキ鬼神ニテモ其處ニ在シ人ノ功勞アリ仁德アリテ後ノ人コト有レバ上ヨリ許シテ祠ヲ造リ廟ヲ立テ其ノ事アリ。是又命祀ノ類ナリ。此等ノ外ニ祭ルベキ道理モ無キ鬼神ヲ妄ニ祭ル。是ヲ淫祀トイフ。禮記ニ淫祀無福ト云。凡人民ハ愚ナル者ニテ少モ怪キ事アレバ何ノ故モ無キ神ヲ尊敬シテ祭ル事アリ。左様ノ淫祀ヲハ時クニ上ヨリ抑ヘテ其祠ヲ破

却^{チヤウ}シ其祭ヲ停止スル是政務ノ一ツナリ唐ノ代ニ狄仁傑民ノ
淫祀ヲ禁ジテ二百餘所ノ祠ヲ毀^{コホ}チケルトイフハ英雄ノ所為ナ
リ日本ニハ昔ヨリ淫祀ノ禁示ナキ故ニ民間ハイニ及^ガス士大夫
以上ニモ淫祀トイフコトヲ知ラズシテ謂^{イハ}レモ無キ神ヲ祭^サト甚多
シ其中ニ伊勢カハ幡ノ如キハ天子ノ祭リタニフ
ヲ祭ル所ニ非ズ是ヲ庶人ノ不淨ナル家ニテ祭ル
ナリ春日ハ藤原氏ノ祖神ナリ藤原氏ニアラ
天満宮ハ管丞相ノ廟ナリ管原氏ニアラスハ祭ルベカラス此等ノ
類ヲ祭ル皆淫祀ナリ又コレヲ瀆^{トク}祀トモイフ瀆^{トク}祀トハ神ヲ瀆ス
ナリ孔子ノ言ニ非^ニ其鬼^ニ而祭^ル之^ヲ諂^ラ也トノクニヘルモ是ナリ魯ノ季

孫氏が泰山ヲ祭リシヲ孔子ノ誹^ヒリタマヘルモ祭ル^ルニシテ神ノハレ^ル故
ナリ淫祀無福トアレバ福ヲ求ントテ祭テモ福ヲ得レトハ無キナリ殊
ニ瀆^{トク}祀ハ神ノ罰ヲ得ベキ義ナルニ即時ニ罰ナキハ幸ナリ又狐ヲハ稻
荷^{アガ}ト崇^{クニナ}メ蛇ヲハ字賀神ト名ツケテ祭ル類ハ淫祀ハ邪ニ殊ニ愚
ナル事ナリ人ハ萬物ノ靈ニテ萬物ノ中ニ人ヨリ貴
狐ヲ尊ビ蛇ヲ敬フハ譬^ヒ言ヘハ人君ノ奴僕ヲ尊
リ至愚トイフベシ異國ニハ俗間ニ北斗ノ星ヲ祭ル法アリ然レモ天
ノ星ハ下民ノ祭ルベキ神ニアラザル故ニ上ヨリコレヲ禁^シテ祭^スズメ
總^トシテ一切ノ淫祀ヲ禁スルコト甚^ハ嚴ナリ犯ス者ハ刑ニ處^ス其法
歷代ノ律ニ見エタリ凡民間ノ淫祀ヲハ上ヨリ嚴ニ禁^スルヲ善キ

政トス近世ニハ水戸ノ義公國內ノ淫祀ヲ停止シテ數多ノ祠ヲ
毀クタヒシトイフ治道ヲ知リタヘル英雄トイフベシ

○凡鬼神ニハ必爵位アリ天帝ハ至尊ナリイフニ及バズ日月星辰ハ
天ニ在ル神ナレバ是亦爵位ヲイハズ地ニ在ル神ハ天子ノ爵位ヲ以
テ其尊卑ヲ定メラル先王ノ禮ニ五嶽ハ三公ニ

視フト云リ五嶽ハ東岱南衡西華北恒中崑
中ニテハ此五ツヲ最尊トシテ三公ノ位ニ比スルナリ四

ナリ川ノ中ニテハ此四ツヲ最尊トシテ諸侯ニ比スルナリ諸侯下イハ
三公ヨリ一等降レリカクノ如クアレバ五嶽四瀆ノ外ハ公侯ニ比スル

位ノ神ナシト見ユ爵位ノ容易ナラヌナリ五國ニテモ古ハ諸國諸祠
ノ名神ニ皇朝ヨリ爵位ヲ賜ハルト三位ヨリ上ナキ諸

ニシタマフ故ナリ今ノ世ハ在ク處クノ小祠或ハ都ノ市中ニ在ル
稻荷ノ祠ナド數ニモ足ラヌホトノ賤キ神ヲ正一ニ叙シ白河吉

田ノ兩家ヨリ宣旨ヲ申シ下シテ巫祝ヲ輩ニシテ事甚多
シサレバ處クノ神廟ニ正一位ノ額ヲ挂サレ

ナキ事ニテ吾國ノ古禮ニ違ヘルナリ縦淫祀ニ
トモ三品以上ノ爵ヲバ輒ク賜ハルシキ義ナリ況ヤ狐ヲ祭リ蛇

ヲ祭ル類ノ淫祀ニ正一位ヲ賜ハルベキヤ日本ノ古禮ハ三公モ正
前ニ正一位ニ陞レル人ハ稀ナリ然ルヲ今小ノ賤キ神ヲ正

一位ニ叙シテ大祠ノ貴キ神ヲバ如何ナル爵位ニ陞スヘキヤ是

國家ニ古ヲ稽ル人ナキ故ナリ、爵ヲ黷ストイフハ此類ノ事ナリ、
○古ヨリ天子國君祭祀ヲナシテ、民ノ為ニ年ヲ祈リ、災ヲ禳ヒ
タラフハ常ナリ、久シク雨フデザレバ、雨ヲ求ル祭アリ、雨多ケレバ、雨
止ル祭アリ、此方ニテモ、在處ノ民間ニハ、雨ヲ求ル祭アリ、今東都
ニテ重キ患トイフハ、火災ナリ、火災ハ久シク雨ヲ
リ起ルナレバ、時々ニ祭ヲナシテ、雨ヲ求メ風ヲ止ム
效アルニジキニ非ズ、聖人ノ神祇ヲ敬ヒ、サレバ國ノ
為民ノ為ニ福ヲ祈リ、災ヲ禳ヒタラフコト、常ノシムル觀レバ、却テ愚
ナル様ニ見ユル事アリ、然レドモ人カラ盡シタル上、神祇ノ助ヲ憑
ムヨリ外ナキ者ナリ、神ハ聰明正直ナル者ニテ、兒童ノ戯ノ如クナリ

祭ヲナシテ感應アル是鬼神ノ測リガタキ處ナリ、天ヲ畏ル、民ヲ憂
フル王者ノ心ナリ、此段ハ尋常ノ經學ノ徒ノ預リ知ル所ニ非ズ、
○凡祭ニハ必主人アリ、天子國君モ重キ祭ヲハ必
其時ハ天子國君スナハテ祭主ナリ、若輕キ祭ニ臣
レバ、其君ニ代レル者スナハテ祭主ナリ、鬼神ニ事スル
巫ハカンナギト訓ズ、今イフニコナリ、巫覡トイフ時
ナリ、覡ハ今ノ禰宜ナリ、祝ハ和訓ニハフリトイフ、
イフ是ナリ、中古以來僧ヲ用ル事アリ、今ノ俗、別當トイフ、別當
モ祝ナリ、祝ハ鬼神ニ事フル者ニテ、祭ノ主人ニハ非ズ、世俗是ヲ知
ラス、神主別當ヲ祭主ノ如クニ思フハ、誤ナリ、又神主トイフハ、鬼神

ノ正躰ナリ。或ハ石ニテ作り。或ハ木ニテ作ル。位牌ノ如クナル者ニテ位
牌ニ非ズ。俗ニイフ神躰ナリ。日本ニテハ石主木主ヲ作ラズ。紙ニテ
幣トイフ物ヲ作テ神躰トスル。國ノ風俗ナリ。是ハナチ神主ナリ。
然ルニ祝ヲ神主トイフハ名目ノ謬ナリ。又凡神靈ヲ安置スル所ヲ
廟トイヒ。祠トイフ。廟ノ字ヲバミヤト訓ジ。祠ノ字
口ト訓ズレ

トモ實ハ同義ナリ。異國ニテハ五嶽四瀆等ノ社
賢人君子忠臣義士貞女節婦等ノ靈ヲ祭ル。是祠トイフ。
ニツノ名ヲ合セテ祠廟トモイフ。今ノ俗ニ人ノ墓ヲ祠トイフハ大ナル訛
ナリ。又凡神ノ祠ヲ社トイフハ昔ヨリノ訛ナリ。社ハ社稷ノ社ナリ。土
神ヲ祭ル所ヲ社トイフ。上ニ云レガ如シ。又異國ニテハ祭ニハ必社トイフ。同

フ牛ヲ太牢トイヒ。羊ヲ少牢トイヒ。豕ヲ特牲トイフ。牛ヲ祭ラ
三牲トイフ。牲アルヲ祭トイヒ。牲ナキヲ薦トイフ。古ノ名目ナリ。
日本ニテハ鹿兔ナドヲ牲トスルコト有レドモ其類。スズ大抵ハ
魚鳥ヲ用フ。浮屠ノ別當スル祠ニハ魚鳥ヲモ用。菜蔬ヲ用レ
ハ薦トイフベキ事ニテ祭トイヒガタシ。是異國トモ
ルナリ。若今コレヲ改ントセバ却テ害ヲ生ズベシ。習ハ
便利ナルベシ。改メサルモ

○先祖ノ祀ヲ奉ズルニ天子ハ七廟ヲ立テ。諸侯ハ五廟ヲ立テ。大
夫ハ三廟ヲ立ツ。士ハ一廟ヲ立ルトイフ。天子ノ元士ナリ。士ニ上中
下アリ。元士ハ上士ナリ。上士ハ爵モ貴ク。祿モ重キ故ニ一廟ヲ立

ルナリ中士以下ハ廟ナシ。廟ハ墓所ニ非ズ。神主ヲ安置スル宮ナ
リ。天子七廟トイフハ太祖ノ廟ヲ南向ケテ立ツ。左右ニ三廟ツ、
相並ヘテ立ツ。皆南向ナリ。左ヲ昭廟トイヒ。右ヲ穆廟トイフ。是ヲ二
昭三穆トイフ。太祖ノ廟ハ永クニ祭ル。其下三昭。極ハ上ノ父
以上六代ヲ祭ル。七代ニナレ。其廟ヲ毀テ其神主
廟トテ祭ラ
サル神主ヲ藏ムヘキ為ノ廟ヲ太祖ノ廟ノ側ニ作。其中ニ藏ムルナリ。
廟ヲ毀ツトイフハ悉破却スルニ非ズ。檐ハカリヲ毀テ新ク作り更
テ。其外ハ修理ヲ加ヘ彩色等ヲ新ニシテ又用ルナリ。下ヨリ順ク
ニクリ上テ神主ヲ遷シ。最下ノ廟ニ新キ神主ヲ立ナリ。然レハ昭
ノ子ハ穆ナリ。穆ノ子ハ昭ナリ。父ト子ト相並ベテ廟ヲ立ルナリ。諸

侯ハ五廟ナレバ太祖ノ廟ノ外ニ二昭二穆ヲ立テ父ヨリ上高祖
ニテ四代ヲ祭ル。五代ニナレ。其廟ヲ毀テ其神主ヲ遷スコト上ニ
云ルガ如シ。大夫ハ三廟ナレバ太祖ノ外ニ一昭一穆ヲ立テ祖父ニ
テヲ祭ル。二代ナリ。曾祖ニナレ。廟ヲ毀テ其神主ヲ遷スコト上ニ
一廟ナレバ父バカリヲ祭ル。父ノ廟ヲ禰廟トイフ。名
祭ラズ。宗廟ノ制度カクノ如シ。王者ハ右社ヲ立テ。天子
朝廷ノ右ニ社稷ヲ立テ。左ニ宗廟ヲ立ツ。天子ハ又國家ノ大
政事ノ少モ重ダキタル事ヲハ必宗廟ニ告グ。又國家ノ大
禮ヲハ多クハ宗廟ニテ行フガ故ニ天子諸侯ハ宗廟ニ朝セラルコト
数ナリ。凡宗廟ノ禮式ヲハ大宗伯太常トイフ官人コレヲ掌ル

天子ノ墓ヲハ陵リョウトイフ、諸侯以下ヲハ墓ボトイフ、陵墓ハ都城ヨリ
五里モ十里モ遠キ處ニ在リ、是ニモ別ニ數多ノ官吏ヲ置テ守
ラシム、陵墓ニハ天子モ諸侯モ宗廟ノ如クニ屢拜謁シタマフコトハ
無キナリ、陵墓ニハ園ソノアリ、側ニ寢殿カクハラヲ作シ、シシハ神靈
ヲ栖カシムル故ニ寢園トモ、陵寢トモイフ、今ノ
者ナリ、是宗廟ニ非ズ、凡宗廟ヲ祭ルハ天子
ニ祭リタマフ、其下ハ時祭トテ、四時シイシニ一タビツ、カ
用フ、二月、五月、八月、十一月ナリ、又其下ハ春秋
仲春、仲秋ナリ、此等ノ祭ハ吉祭トテ、日出タ
祭ルト同然ナリ、忌日キジツトイフハ、先祖父母ノ死セル日ヲ、忌日トイ

フ年ニ一日ナリ、是ヲ忌日トイフハ、何事ニモ此日ヲハ忌
故ナリ、忌ムトイフハ、慎ム意ナリ、此日ニハ其死セル
思テ、其死セル時ノ心ニナリテ、哀カナシヲ起スガ故ニ、萬事ヲ止テ慎ムナリ、
是ニ因テ、忌日ヲ終身ノ喪トイフ、一生ノ内ノ
ハ、己心日ヲハ、四時常祭ノ外ニシテ、喪ノ内ノ如
祭服ヲハ着ス、素服ヲ着ル、素服ハ凶服ナリ、
ヒズ、供物等ハ吉祭ニ異ナルコト無シ、只祭ル者ノ心、吉祭人思ヒヲナ
スト、哀カナシヲ起ストノ易リノミナリ、已上宗廟ノ祭ノ大略ナリ、
○異國ニテハ古ヨリ今ノ世ニテ、國家ニ宗廟ノ禮ヲ廢セス、中古
以來、佛法盛ニナリテ、天子王公ニモ佛法ヲ尊信スル人アレトモ、喪ト

祭トハ必聖人ノ道ヲ用テ佛者ノ道ヲハ用ヒズ士大夫モ然ナリ
若佛法ヲ信スル者モ僧ヲ請ジテ齋會ヲ設ケ布施ヲ行ルノミ
ナリ是ヲナスニ因テ家ノ祭ヲ廢スルコトハ無シ吾國ニハ古ヨリ天
ニモ宗廟ナシ祭祀ヲバ如何ニ行ハレシヤラン詳ニハリガレ佛法ナ
カリシ以前ハ草昧ノ時ニテ國史モ詳ナラ子ハ
求ムヘキ様モ無シ佛法行ハレテヨリ以來ハ只佛
ユルナリ古ノ苑ホムリハ天子モ其下モ處々遠地ニ
苑サルコトハ無カリシニ中古以來ハ天子ヲモ寺ニ祀ニ葬リ奉
ル事ニナリ又况ヤ武家ノ世トナリテハ中華ノ
モ無ク吾國ノ古ヲ尋ル者モ無ク只便利ニ就
テノ祭ニ從ヒ喪

祭ノ禮ヲ捨テ偏ニ佛事ヲ營ムニナリ當代ニ天下文明ノ時至テ
士大夫ノ間ニ儒學アリ書ヲ讀ミ文ヲ學ビ孝義ノ道ノ問
フ者モ世ニ少カラズ是誠ニ
東照宮ノ神德赫々トシテ秋津洲ヲ照臨シコト前代ニ超コエタ
ル故ナリ此時ニ當リテ宗廟祭祀ノ禮ヲ制セラレ
有ルニジキニ國初以來有司ノ人因循ノ政ヲ
議スル人ナキハ遺恨ナリ是習俗ノ蔽ノミニモ非ズ此代ノ國法ニ天
主教ヲ禁ゼラルコト甚嚴ニテ海内ノ人貴賤ト無ク佛法ノ宗シテト
奉行スベキヨシヲ令セラレニ因テ佛法ニアニサレハ喪祭ヲ行フヘカ
ラスト思テ中華ノ聖人ノ道ヲモ天主教ト均ク忌テ敢テコレヲ

行ハズ舊キニ依テ佛法ニ任スルノミナリ是俗ノ誤ナリ天主教ヲ
禁ジタマフハ誠ニ國家ノ至意ナリ聖人ノ道何ゾ天主教ト混
セシヤ上ニ云ル如ク佛事ヲナシテ追薦スルハ人ノ心ニ任スル事ニ
テ殊ニ當代ノ國家ノ大法ナレバ定メレル宗廟ノ寺院ニ大小
ツレクノ佛事ヲナスベキハ何ノ害モ無キ事ナ
セテ一向ニ佛事ヲナスノミナル事ハ庶人細民ノ
便利ナルコトモ有リ士大夫以上爵祿モ有ル
其國其邑ニ宗廟祠堂ヲ建テ四時ノ祭ヲ行ハルベキ者ナリ然
ルラ庶民ノ如ク僧ニ任セテ佛事ヲ行ハシメテ自
ナサズ酒肉ヲモ絶タズ其家ニテ輕キ祭ヲモ行ハサズ不孝トイフ
爾者ニハ
増テ國君ナドハ
爾者ニハ

ベシ如何ホド大ナル佛事ヲナシテモ孝子孝孫ノ自身ニ祭ラサル
ヲバ先祖父母ハ享クニシキナリ父母ノ生前ニハ
アラレズ死亡セル人ハ日々ニ飲食ヲ作テ養フ
タビツモ祭ルコトハ難事ニモ非ズ是ヲ廢シテハ
子トイハカハラ
ズ
○今ノ世俗佛法ニ從テ死後一周年再周
三周十七周二十一周或ハ二十三周二十五周
三周五十周一百周ニ當レル年ニ追薦トテ佛事ヲナシ其間ノ
年ハ幾年モ空ク過ルナリ百年以後ハ百年ゴトニ佛事ヲナス
ノミナリ凡此事ハ佛法ニモ本據ナシト聞ユ舊事本紀ノ中ニ

出タリ、舊事本紀ハ、聖德太子ノ作ラレシ書トイフハ、詐ナリ、近世ノ
人ノ偽作ナリ、書中ニ記セルコト、多クハ虚妄ノ説ニテ、信用スルニ足ラ
ズサリナガラ、當代ハ、天主教ヲ奉セザル證驗ニ、必佛法ヲ奉守スル
コト、國法ナレバ、毎年ニ非ズトモ、三年五年ニ一寺、講テ佛
事ヲナシ、或ハ僧ヲ家ニ請ジテ齋ヲ設ルモ、
又今ノ世ハ、王公大人モ、寺院ノ内ヲ借テ葬地
為ニ墳墓ヲ守ル者ナレバ、佛事ニ寄テ、其勤ヲ起
必シモ是ヲ廢スベカラス、若果シテ忌日ヲ祭ルハ、
年ニ祭ルベシ、僧ヲ憑ムヘカラス、
家ニテ毎

○當代西城ノ紅葉山ニ

神祖以下、累世ノ廟ヲ立置セタマヘトモ、祭祀ノ禮ヲ奉テヒタマハス、
依然トシテ世俗ノ習ハシノ如ク、大祥ノ後ハ、七日、十三日、
年數ヲ以テ、東叡山増上寺ノ兩寺ニテ、毎日千僧ヲ集テ、千
部ノ經ヲ讀ミシメ、十日ヲ積テ、一万部ニ滿ルニ
此時ハ、皇朝ヨリ勅使ノ公卿ヲ差遣サレ、
十日讀經ノ外ニ、又兩日ノ法會アリ、
ナルノミナラス、是ヲ助ル諸侯有司モ、數千金ヲ費サレ、
憲廟薨ジタマヒテヨリ、三年ニシテ、
文廟薨ジタマヒ、又四年ニシテ、
章廟薨ジタマフ、寶永正徳ノ間、十年ナラザルニ、大喪三ツ有リ、

東叡増上ノ兩寺ニテ、追薦ノ佛事ヲナシタマフコト、一年ニ兩三度
ニ及ベリ、海内ノ富ヲ以テスレドモ、數度ノ大法會ノ費ヲ支ルコト
能ハズ、殆^{ホトト}國用ノ匱^{トホシ}キニ至ントス、是ニ因テ享保ノ初、今ノ
國家新令ヲ下シタマヒ、万部ノ經ヲ千部ニ減ジ、千部ヲ減ジテ
或ハ二百僧、或ハ三百僧ヲ集テ、五日三日ヲ^ニ讀^ムシム、
皇朝ノ勅使ヲ止メ、大法會ノ儀式ヲ減裁^{ケシ}ス、
ハル是ヨリ、國家ノ費大ニ減ジテ、十分ノ一ト、
有司モ多クノ錢穀ヲ費スコトヲ免カル、是實^ニ、
タニヘル長策トイフベシ、然レドモ聖人ノ道ヲ用テ、
禮ヲ行ハセタマハ、縱^{タビ}毎月ニ祭クニフトモ、其費今ノ佛事ノ費ノ

十分ノ一ニモ及ブニシ、日數ヲ歷ルコトモ無ク、七日三日ノ齋戒ヲ
守タマフノミニテ、祭禮ハ只一日ニテ成就スベシ、是^レ、
佛事法會ヲ行ヒテ、無益ノ財ヲ費シタマフハ、何^レ、
ノ祭禮ヲ行ヒタマハズシテ、專ニ佛事ヲナシタマハ、
海内ノ富ヲ以テ、先廟ノ為ニ、五七年ニ一々、
ノ經ヲ讀シメラル、モ、過タルニハ非ズ、大國ノ喆^ト、
間ノ富有ナル者モ、先祖父母ノ為ニ、寺院ニテ、
ル事アリ、今、國家ノ佛事ニ、千部ヲ限トシタマハ、諸侯以下ノ佛
事ト異ナルコト無シ、茲ニ至テハ、貴賤ノ別ナシトモイフベシ、又佛法ニテ、
昔ヨリ千僧万僧ヲ供養スルトイフハ、飲食衣服ヲ以テ、一日ニテモ五

日十日ニテモ僧ヲ養テ是ヲ作善トスルナリ必シモ千部万部ノ經ヲ
讀シメテ衆僧ヲ勞苦セシムルニハ非ズ供養ヲ主トスル故ナリサレドモ
供養ヲ受ル僧等徒ニ供養ヲ受クヘキニアラサルガ故ニ各其家ノ法
ニ依テ大小ソレクノ佛事ヲナシテ施主ノ恩ニ報
ハ只佛法僧ノ三寶ヲ供養スルヲ作善トスル
ヲ讀シメテ勞苦サスベシトハ非ズ今ノ佛事トシ
テ供養ヲバ略シテ千部万部ノ經ヲ讀シメ勞
要トス是佛法ノ本意ニ違ヘリ且衆僧ノ中
多ケレバ法會ノ場ニテ非禮不敬ナル事ノミナリ
ク集テ經ヲ讀シメテ何ノ功德カ有ン實ニ無
佛事ヲナスヲ
無軌心ノ俗僧
事ナリ然レバ今

ノ世ニ宗廟祭祀ノ禮モ行ハズ只流俗ニ從テ佛事ヲナシテ先祖
父母ニ追薦セントナラハ千部万部ノ讀經ヲ止テ王
ルハ寺院ニテモ又ハ自己ノ第宅ニテモ行儀ノ正
大齋會ヲ設ケ布施ヲ行ヒテ儀式アル佛事
レル僧衆モ徒ニ信施ヲ受クヘキニアラサレハ聲
ナル佛事ヲ行ジテ亡者ノ冥福ヲ祈リ施キ
數ヲ多ク經ルニモ及ハズ當日一朝或ハ前日
ヲ終フベシカクノ如クセバ佛法ノ本意ニ合ヒ儀式モ翻ニテハノ
信敬ヲ起シ僧徒モ勞苦ナク施主ノ費モ少カルベシ祭祀ノ
正禮ニアラザレトモ佛法ヲ用ル中ニテハ此ハ彼ヨリモ善シトイフヘキカ

○先祖父母ヲ祭ルニ神主アリ神牌アリ神主ハ亡者ノ正躰ナリ影
像ト同ジ義ナリ神牌ハ亡者ノ神靈ノ居處ヲ記スフダナリ何レ
モ木ニテ作ル物ナレドモ其義別ナリ其制同カラス是名一某
ノ神主ト書シ神牌ニ某ノ神位ト書ス神牌ヲ
世ニ位牌トイフ是ナリ士大夫以上ニテ先廟祠
ヘシ祠堂ナキ者ハ神牌バカリヲ作テ神主ヲ作ル
親ノ正躰ニテ其神靈ヲヤトシタル物ナレバ常ニコレヲ
等ノ非常ノ難アル時ニ奉ジテ他處ニ移スベシ若
ニ燒ケバ親ノ身ヲ害スルト同然メ罪ナリ神牌ハ口
物ニテ神靈ノ憑レルニアラサレハ過ツテ水ニ流シ火ニ燒テモ親ヲ害シ
座位ヲ表スル

タル罪ニ非ズ今江戸ニテハ士大夫以上モ多クハ旅客ナリ殊ニ火災
數ニテ危キ事ノミナレバ厚祿ノ家モ神主ヲ輒タカハルニシキ義ナリ
今ノ世俗ニ位牌ヲ神主ノ如クニ思ヒ學者トイヘトモ誤テ主ト牌ト
ヲ混同スル者アリ考ヘザルノ過ナリ

○上ニ云ル如ク己心日トイフハ親ノ死シタル日ナリ
間ニ毎月ノ其日ヲ己心日ト稱シテ寺院ニ詣
謁スルハ誤ナリ然レドモ今ノ世ハ王公大人ヨリ
只毎月ニ位牌ヲ拜スルノミナレバ是ヲ非禮ナリトテ止メナハル先
母ニ遠ガカリテ祀ヲ廢スルニ近カルベシ姑コレヲ其ニニ置テ先祖父
母ヲ忘レザルノ端トセンモ可ナリ若四時ノ常祭ヲ行ハハ毎月ニ墳墓

今俗
墳墓ニ拜
祭ヲ行ハ

ニ謁シ寺廟ニ焼香スルニ及ブニシキナリ朔望等ノ日ニ茶菓ヲ獻シ
テ拜禮スルハ中華ノ禮ナリ墳墓ヲ祭ルト古禮ニ非ストイヘトモ異
國ニモ此事アリ唐ノ代ヨリ毎歲清明ノ日ニ墓ヲ掃サウゴハ肉
ヲ以テ祭ル清明ハ三月ノ節ナリ日本ニテハ中元
十五日ナリ佛家ノ盂蘭盆ウラハシヨリ起レル俗ナリ然レ
ト風俗ノ不同ナリ必シモ清明ニ祭ルガ是ニテ中元
アルニジケレバ中元ノ墓祭ヲ其ニ行ハシコト苦シカ
事ハ人々ノ意ニテ用捨不同ナレドモ厚キハ薄キモ務ルルニ其國
家ノ禮制ニモアラザレバ古來ノ禮ヲ斟酌シシキヤクシテ宜キ隨テ外ハ有ルニ
ジキ者ナリ

學政

學政トイフハ學術ノ政令ナリ天下國家ヲ治ムルニハ
人才ハ學問ヨリ出ルナレバ天下ノ人ニ學問ヲササシメテ人々ノ出ル様ニスル
政ヲ學政トイフ凡人ハ性質ニ智愚賢不肖アリテ此等月世ハハ賢カシクキ
者アリ學問シテモ不賢ナル者アリ然レドモ性質ノ
ナキ者ハ今日目ニ見耳ニ聞タル事ハカリヲ知テ遠
下ノ事トヲ知ラサル故ニ聞見狭ク知識小クシテ
家ヲ治ムルニモ是非ニ迷ヒ處置ニ惑フコト有リ况ヤ天下國家ヲ治
ムルニ管ノ中ヨリ天ヲ視ル如クナル小キ見識ニテ何トシテ大ナル政ヲ行
ハシヤ書ヲ讀ミ學問シタル者ハ此國ニ居テ異國ノ事ヲモ知リ今ノ世

ニ生レテ、千萬年ノ遠キ古ヲモ知リ、^{學正}聖賢ノ教ヲ守リ、^十歷代ノ治亂、
政事ノ得失ヲ考テ、今日ノ時宜ニ隨フ、是學問ノ益ナリ、宋ノ太
祖ノ宰相ニ書ヲ讀タル人ヲ用フベシトノタニヒシハ、眞ノ帝ナリ、
サル故ニ昔先主ノ世ニハ天子諸侯ノ國都ハイヲ、
トテ在ク、處ニテニ皆學校アリテ、士民ニ學問ヲ、
八歳ニシテ小學ニ入ル、^子小學トハ在處ニ在ル小、
學シテ六甲、五方、書計ノ事ヲ學ブ、六甲トハ十、
子乙丑ノ類ナリ、五方トハ東西南北中央ノ名、
リモノカクコトヲ學ブナリ、計ハ^{ケイ}算數ナリ、是童子ノ
上ノ者ノ習フ所ナリ、是ヨリ^{シヤク}稍クニ長幼ノ節、
知ル、今ノ世ニ七

八歳以上ノ童子ヲ、師ノ所ニ集テ、モノカクコトヲ教、^{コウ}小誦ヲ教ハ、今
川狀庭訓式目ナドヲ讀シメ、九ノ八算ナドヲ教、^第一、^二朱晦庵
ガ小學ノ書ヲ作テ、古ノ小學ノ道ナリトイヘルハ、^三非ズ書
中ニ記セルヲ觀レバ、皆太人ノ學ブベキ事トモナリ、^再古々小學
ノ事ヲ考ヘズシテ作レルナリ、サテ十五ニシテ大、^年禮樂
ヲ學ビ、士大夫トナリテ朝廷ニ立ツベキ禮儀ヲ、^大大學
テ性質伶俐ニテ、秀才トモナルベキ者ヲハ、^{キヤウ}郷學ニ
數一萬二千五百ノ人ノ聚ル所ナリ、^{アツ}戸數ノクミナテ、^隣隣
イフ、五鄰ヲ里トイフ、里ハ二十五戸ナリ、四里ヲ族トイフ、族ハ百戸ナ
リ、五族ヲ黨トイフ、黨ハ五百戸ナリ、五黨ヲ州トイフ、州ハ二千五

百戸ナリ五州ヲ郷トイフ郷ハ萬二千五百戸ナリ支配ニ大小アリ
其地ヲ治ムル官吏ニ貴賤アル故ニ郷州黨族里ノ五等ノ名アルナ
リ郷學トイフハ一郷ニ一ツアル學校ナリ郷學ニ入ル諸君
ヨリ養ヲ給ハルナリサテ郷學ノ中ニテ秀タル者

移ス諸侯ノ學校ヲ國學トイフ又是ヲ少學

太學トイフニ對シテ少學トイフナリ上ニ云ル大

ナリ此太學少學ハ尊卑ノ稱ナリサテ少學ノ

擇テ諸侯ヨリ推舉シテ天子ニ獻ジ京都ノ太學ニ入レ是ヲ貢士

トモ造士トモイフサテ又郷黨ニテ人ノ德行才藝

郷飲酒郷射ノ禮ヲ以テ試ル其事ハ前ニ見エタリ秦ノ代ハ學問

ヲ絶滅シタレバ論ズルニ及バズ漢ヨリ以後南北朝間ハ學問ノ道

盛ナレトモ天下郡縣ニナリタレバ三代以前トハ學政ニ

射ノ禮モ廢レテ只其處ヨリ才士ヲ推舉スルノミナリ

隋ノ代ニテハ文章ニテ試ルコト無カリシハ猶古ノ

詩文ヲ作ラシメテ其才ヲ試ルコト始レリ是後世

ハ人ニ別オアリテ智愚賢不肖ニ因ラヌ者ナリ

ニ達セル者ハ國家ノ一ツノ道具ナレドモ天下ヲ治ム

然ルヲ一途ニ是ヲ以テ人才ヲ試ルハ古ノ道ニ違ヘリ

智ハ書ヲ讀ミ學問スルヨリ出ルナレバ詩文ヲ習フ中ヨリ賢智ノ生スル

者モ多シ何ゾコレヲ廢セシヤ惣ジテ中華ノ風ハ古ヨリ今ニ至ルニテ

七

子ノ學交

大小ノ名

秀タル者ヲ

是ヲ貢士

量ヲ擇ブニハ

是ヲ貢士

是ヲ貢士

是ヲ貢士

是ヲ貢士

是ヲ貢士

是ヲ貢士

是ヲ貢士

是ヲ貢士

是ヲ貢士

是ヲ貢士

是ヲ貢士

是ヲ貢士

學問才藝ニ因テ立身シテ庶民ノ子モ爵禄ヲ得テ富貴ニ進ム
カ故ニ人々競テ學問ヲ勵ムナリ

○異國ニテ人才ヲ求ルハ儒學ノミ非ズ武學兵法諸ノ共
ソレクニ試ル法アリテ其勝レタル者ヲバ召出シニ
リ試ニ中リテ召出サルヲ及第トイフサル故ニ天
コロ得タル事ニテ及第ヲ望ムナリ

○日本モ公家ノ世ハ學問ヲ用ラレシ故ニ及第ノ
有テ學者モ多
カリキ武家ノ世トナリテヨリ學問廢レテ僧徒ノ外ハ學問スナキ様
ニ人皆思ヘリ歎カシキ事ニ非ズヤ當代ニ及テ

東照宮ノ明德ニ賴テ士大夫ノ間ニ學問アリ上ハ公卿國君ニ至リ
下ハ庶民ニ至ルニテ儒學ヲ尊信スル風俗ニナレリ

憲廟儒術ヲ尊崇シタヒテ卑賤ヨリ儒學ヲ以テ仁進スル者モ多
ク士大夫世禄ノ家モ書ヲ讀ムコトヲ務トス武家ノ世始テ以
來五百年イダ此時ノ如ク盛ナルコトハアラズ然レモ惜ムル者學
ヲ勸ムル政イダ立タサルニ

憲廟薨ジサセタヒ

文廟

章廟二代ハ國ヲ享タフコト日淺クシテ儒學ヲ興シ
ク文明ノ化暫息ナントセシニ享保ノ時ニ及テ
國家又學術ヲ好ミセタヒ文武ノ才藝登庸シタフコト少

カラス。此時ニ當リテ、海内文明ノ化前代ニ度越セントス。竊ニ願フ
ハ古ヲ稽ヘ時ニ隨テ學政ヲ立ラレバ、弥治化ノ本ヲ張テ、人オヲ
出スコト窮リ無カルベシ。

○元祿以來、儒學ノ士ヲ微賤ヨリ擢テ、祿俸ヲ以テ朝士ノ班
ニ列セシメタラフコト頗多シ。然レドモ此等ノ輩、大ニ學書記ノ任
ニ止リテ、政事ニ預カルコト無シ、官吏トナリテ、政事ニ與ル者ハ
皆士大夫世祿ノ家ナリ、尚書ノ畢命ニ世祿ノ家鮮克由禮ニ
ト云リ、世祿ノ家ハ飽食煖衣ニテ、學術ヲ知ラズ、人情ヲ通ゼズ、
政事ノ得失ニ於テハ、茫然トシテ醉人ノ如シ。譬ハ醫者ノ醫
書ヲ讀マズ、古方ヲ學ハズシテ、一己ノ私智ヲ以テ人ノ病ヲ治セン

トスルガ如シ、誤多キコト宜ナリ。今若學術ヲ興シタラハ、ソナラバ士
大夫世祿ノ人ニ、學問ヲ勸メタラニシクハナシ。凡、學問ヲ勸メタラ
ニハ、只學問セヨトノ號令ヲ下シタラフノミテハ、人ノ勸ムコト無キ者
ナリ。號令ナクトモ、又ハ號令ヲ下シタラヘル後ニテ、士大夫ノ申ニ
學問ヲ好ミ、德行才藝アル者アラハ、是ヲ重ク賞ス。ハズシ其賞
ハ或ハ爵位ヲ賜ヒ、或ハ金銀等ヲ賜ヒ、或ハ祿俸ヲ賜ヒ、或ハ
宅地ヲ賜ヒ、或ハ番衛ノ列ヲ出シ、或ハ官ヲ授ケ、或ハ類ナリ。其、
品ニ隨テ、宜キ所ナルベシ。利ヲ見テ勸ムハ、人情ナリ。上ヨリ學問ヲ
賞シタラフヲ見テハ、及バヌ者モ是ヲ羨ミ、己ハ學問ナクトモ、子孫
ナトヲ勵ムシテ、學問ニ勸ムシムル者アルベシ。必シモ古代ノ如クニ、學

校ヲ建^{タテ}テ學^ガバシメ^スル^ハニモ及^ハズ學問アル者ヲサヘ賞セラルレバ下ノ
人ハ必^{カナラ}勸^ムミテ學問スルナリ是學政ノ一ツナリ又士大夫ハヨク及^ズ
萬石以上ノ諸侯モ官人トナリテ上ニ用ラレシコトヲ樂^ミク人^ノ情ナリ
サレバ必^ズ學問アル人ヲ擇^ビテ大小ノ役ヲ命^ジセ^ル號令ナクトモ
人々學問ニ趣クベシ是必然ノ理ナリ番衛^ノ人々亦^シ學問ニ
ノ中ヨリ拔^ククナリ官ヲ遷^ストハ役ヲ易^クルナリ然ルニ^モ德アル
者ニハ爵ヲ進^メ功アル者ニハ祿ヲ益^ス是常^ノ道ナリ^シ子^ノ爵ヲ
好^ムハ德ノ類ナレバ大抵ハ爵位ヲ陞^スルヲ賞^トスル^ル年^ナリ爵
位ヲ陞^スルハ六位ヲ五位ニ陞^セ五位ヲ四位ニ^シテ^ハ領^ナリ^シ爵
○學術ハ儒學ヲ第一トスルコト勿論ナリ次ニ武學ナリ武學ト

イフハ孫^ノ吳^ノ兵法軍旅ノ道ナリ此外ハ文武ノ藝術其品多
シ文藝ニハ詩文ノ才天文曆術醫方ト筮^ノ能^ハ能^ハ畫^ノ算^ノ數^ノ
音律和歌ノ道此國ノ古書ヲ讀^ミ故^ノ實^ニ達^{セル}輩^ハ是^ハ皆^ハ文
藝ノ類ナリ武藝ハ射^ノ騎^ノ劍^ノ術^ノ鳥^ノ銃^ノ槍^ノ棒^ノ丁^ノ拳^ノ游^ノ烟^ノ馬^ノ醫^ノ
鷹^ノ師^ノ類^ハ是^ハナリ又此外ニ諸ノ細工ニ達セル者^ハ危^ノ厨^ノ調^ノ膳^ノ
ニ精^ク或^ハ茶^ヲ嗜^シ或^ハ花^ヲ裁^ヘ或^ハ鳥^ノ或^ハ種^ノ
ノ小技小術ニテ各其妙ヲ極^{タル}皆^ハ國家ノ才^ナリ^シトイフコ
ト無^シ此等ノ藝術皆其家ヲ限^ラズ有司ノ選^ビ試^ミテ以^テ
大小貴賤其品ニ隨^テ朝士ノ中ヨリモ拔^出シ庶人ヨリモ
召^出シテコレヲ用^ヒ祿俸ヲ賜^テ其一生ヲ養^ヒ其子ニ至^テ

父ノ業ヲ繼グコト能ハサル者ヲハ故ノ身ニ還シタマフベシ異國ハ
カクノ如シ日本ニテハ諸道ノ學者技藝ノ徒ニテ多クハ專門ニテ
其家ヲ世ニシ國家ニ仕ヘテハ其祿俸ヲモ世ニスル故ニ藝術漸
漸ニ拙クナリテ堪能ナル者出来ルコト稀ナリ又
賤クナリテ士人ハ肯テ學バヌモ有リ是專門
トハ一家ヲ立テ其業ヲ傳フルナリ

○凡人ノ才トハ長短アリ長トハ其人ノ得タル方ニテ短トハ得ザル
方ニテ拙キナリ又藝術ヲ習フニ好事ト好ニ事ト有リ父兄ノ命ニテ
モ上ヨリノ督責ニテモ其心ノ好ニ事ハ進ミガタキ者ナリ巴ヤ嗜好ニ事
ハ父兄ノ命ナクテモ上ノ督責ヲ待タストモ日ニ進ミ學習スル故ニ成就

スルコトモ早ク上手ニモ至ルナリ其中ニ又才ノ長短アリ其辛苦セズニテ
成ル事アリ骨ヲ折テモ成リカヌル事アリサレハ人ノ藝術ハ己ガ好ム
事ニテ才ノ長短ヲ思惟シテ長ナル事ヲ學習スル是成就ノ道ナリ然
レドモ才ノ長短ハ自己ニモ知リガタキ者ナリ先ク好ム事ヲ學テ
其事ヲ習熟シテ看ルニ兼テハムツカシク思ヒタル事ノ
成ルコト有ル是才ノ長ナリ始ハ容易ニ思ヘル事
シクテ成リカヌルコト有ル是才ノ短ナリ此長短ハ其
ノ後ニ見ユルナリカクノ如ク自身ニサヘ知リガタキ者ナレバ増テ他人ノ
才ノ長短ハ知リガタキコト勿論ナリ然レバ上ヨリ令ヲ下シテ士人ノ
藝術ヲ勸ムルモ其人ノ好ム所ニテ才ノ長ナル事ヲ習ハシムルニシクハナシ

今ノ世ニ番衛ノ諸士ヲ 上ヨリ督責シタマフ弓馬ノ二ツナリ然ル
ニ番衆ノ中ニ弓馬ヲ好ム者アリ好ニザル者アリ弓馬ヲ好ム中ニモ才
ノ長短アリテ能クスルト能クセザルト有リ弓馬ヲ好ム者ニ學問ヲ好
ム或ハ書畫等ノ技藝ヲ好ム或ハ他ノ武藝ヲ好ム或ハ餘ノ諸ノ
雜伎ヲ好ムモ有リ左様ニ好ム所アリテ其藝ニ
ノ藝ヲ督責セラレテ是ニノミ工夫ヲ費ス故ニ己
暇ナク弓馬ハ己ガ好ニザル事ナレバ日々ニ學習シテモ心留ラ子成
就スルコトモ無ク歲月ヲ歴テモ上手ニ至ルコト無シ是ハ才ニ出来
ラザル端ナリ竊ニ願ハクハ一槩ニ弓馬ヲ習ハシムルニ止テ番衆
ノ中ニテモ其人ノ好ム所ニ任セテ儒學以下文武ノ技藝ヲ何ニテモ

學バシメ儒官ノ子モ武藝ノ才アラバ武藝ヲ習ハシメ醫師ノ子モ
儒學ヲ好ムハ儒士ニ列セシメ各其家業ニ拘ハラズル所ニテ才ノ
長ナル所ヲ習ハシメラレバ人才ハ朝廷ニ盈ルベシサテ人才ト云ハ
ンニハ爵位人品ニ拘ハラズ書字ノ事ニ誰ニテモ
畫圖ノ事ニ誰ニテモ能畫ノ者ヲ 召テ其事
畢リタル後ニ賞ヲ行ハレバ書畫ノ家ニ非ズシテ
其人ノ耻ニ非ズ誰カコレヲ辭センヤ是スナハク人才
華ニテハ古ヨリ今ニ至ルニテ人才ヲ用ルコト此類ナリ漢ノ淳于意ハ
太倉令トテ米倉ヲ主ドル者ナリ張仲景ハ長沙太守ナリ此二
人ハ皆名醫ナリ晉ノ王羲之唐ノ虞世南柳公權歐陽詢褚

遂良顔真卿等ハ皆貴キ官人ナリシガ能書ニテ國家ノ書事ニ
預レリ曹霸ハ將軍ナリシガ能畫ニテ屢朝廷ニ召レテ畫筆ヲ執
レリ是ノミニ非ズ異國ニテハ藝術ニ家ヲ立テズ誰ニテモアレ其藝ノ
上手ヲ召テ其事ヲナサシムル故ニ諸藝云ニ各人多ク方ニテハ家ヲ
定テ其家ニアラザレハ用ヒガル風ナル故ニ其家ニ
ナリ狩野氏ノ畫ヲ業トスルガ如キ元信守信ガ
ノ狩野氏ノ徒斗ニテ量ルホト有テ皆碌々
ヲ用タニハシヨリ常ノ人ノ中ヨリ選テ 召レバ上手出來ルヘ 儒士
醫員ノ類凡諸藝云皆狩野氏ノ畫ト同然ナリハ國家ニ十
年ハカリニ一タヒ沙汰ノ政ヲ行フ古制ナリ沙汰ハ沙汰ノ淘ルヲ

イフ國家ノ用ニ立ガル者ヲ多キ中ヨリ揀ビ出シテ除去ルヲ沙汰
トイフ今ノ世ニ沙汰シタキ輩甚多シ昔元祿年中ハ醫家ノ輩ヲ
沙汰セラレシ事アリ善政ナリ凡此等ノ類皆學
○中華ニテハ藝術ノ士ヲ試ルニ科目トイフコト有リ私ハ品ナリ目ハ
名目ナリ技藝ノ品ヲ分テソレクニ名目ヲ題スルナリ
武學ナリ細ニ分レバ文學ノ中ニ文明經宏辭
中ニ又方略騎射等ノ科目アリ譬ヘバ孔門ノ諸賢ニ德行言語政
事文學ノ四科アルガ如シ人ノ才藝ニ種々ノ器用アル故ニ其人才
ニ隨テソレクノ科ヲ以テ試ルナリ是人才ヲ出ス術ナリ今吾國ニテ
モ文武ノ諸藝ニ科目ヲ立テ番衆諸士ノ中ヨリ其科目ニ應ズル者

ヲ試テ舉用ヒタマハ種々才藝ノ士出ヅベキナリ然ルヲ專ニ弓馬
ノ藝ノミヲ以テ督責セラルハ狹キ道ナリ凡學政ハ只人オヲ多ク
得ルヲ要トス人オハ國家ヲ治ムル道具ナル故ナリ毛詩ニ濟々多士
文王以寧ト云ルハ文王ノ王業ヲ成就シタマヘルハ多ク人オカナルコトヲ
詠セシ詩ナリ濟々ハ多キ貌ナリ

經濟錄卷第六終

經濟錄卷第七

信陽 太宰 撰

章服

章ハ文章ナリ和訓ニアヤトイフ服ハ衣服ナリ和訓ニキモノトイフ
身ニ着ル物ノミニ非ズ首ニ着ル冠ヨリ足ニ着ル屨
イフ冠ヲ元服トイフモ元ハ首ナリ首ノ服トイフ
中ニテ鳥ニ羽アリ獸ニ毛アリ魚ニ鱗アリ鼈ニ介アリ羽毛
鱗介ハ鳥獸魚鼈ノ寒熱ヲ禦グ具ナリ人ハ裸虫ナリ衣服ナ
クテハ肌膚ヲ蓋フコトモ無ク寒熱ニ耐ルコトモ無ク是ニ因テ上古ノ
聖人衣裳トイフ物ヲ制シテ寒熱ヲ禦ガシメタマフ然ルニ鳥獸魚

鬣ニ羽毛鱗介ニ各ソレクノ文彩アリテ雉ハ雉ト見ユ虎ハ虎ト見ユル是天然ノ章服ナリ人ハ本僕蟲ニテ身ニ生レツキ是文彩ナキ故ニ赤裸ニテ衣服ヲ着ザレバ天子モ庶民モ易リ無之聖人は是ヲ知シメシテ肌膚ヲ蓋ヒ寒熱ヲ御セントテ衣服ヲ着サシメテ其衣服ニサシメテ制度ヲナシ色ノ文彩ヲナシテ貴賤ノ差別ヲ立タラフ是章服ノ起リナリ然レバ人ハ章服ナクテ

○周易ニ黃帝堯舜垂衣裳而天下治トアリ衣服ノ制ハ黃帝ノ時ヨリ始レリ堯舜ノ時ノ制ハ尚書ニ見ユ其後歷代ノ制ハ天子諸侯大夫士庶人ノ五等皆其制ナリ士大夫以上又一品ヨリ九品ニテノ階級アリ衣服ハ官職ニ拘ラス爵位ヲ以テ其品ヲ分ル是古來ノ制ナリ然レドモ間ニハ官職ニ因テ其冠服ヲ異ニスルモ有リ執法ノ吏ハ獬豸冠ヲ冠リ侍中ハ蟬冕ヲ冠リ如シ又三代以後歷代ハ冠服ニ文職武職ノ別ナリ是衣服ノ制ノ代ニハ文武ヲ別チテ一品ヨリ九品ニテノ服ヲ制セ

○日本ニテハ上古ノ冠服如何ナル制ナリシトイフズ
皇ノ朝ニ聖德太子攝政セラレシ時始テ十二階ノ冠服ニ推古天皇ノ時始テ紵冠漆塗ノ烏帽子ヲ制ストイフ然レドモ此等ノ冠服其制詳ナラス是ヨリ其後冠服ノ制幾度カ變セリト見ユ今ノ詳ナルナリ

德大仁少仁大禮少禮大信少信大義少義大智少智是ナリ文武天皇ノ時始テ紵冠漆塗ノ烏帽子ヲ制ストイフ然レドモ此等ノ冠服其制詳ナラス是ヨリ其後冠服ノ制幾度カ變セリト見ユ今

ノ公家ノ冠服ハ何レノ時ノ制ゾトイフコトヲ知ラズ其初中華ノ六朝ヨリ唐ノ代ニテノ制ニ倣テ其上ヲ損益シタル者ナリ世ハ今ノ公家ノ服ハ異國ノ制ニ似タル處モ有リ大ニ似ダレ處モ有リ畢竟ハ日本ノ服ナレドモ爵位ヲ高下ニ隨テ等級アルニテ其具ノ章服ナリ武家ノ世トナリテハ公家ノ子ニ布ノ直垂ヲ着ル是武家ノ服ナリ烏帽子ハ烏帽子ナリ布ノ直垂トイフハ今ノ大紋ノ直垂ナリ公家ニテ大紋ノ袴トイフハ指貫ナリ武家ノ直垂ニ昔ハ家ノカリシ故ニ只コレヲ直垂トイヘルヲ近世ニナリテ家ノトス是ヨリ俗ニ大紋トイフ士烏帽子ニ素襖ヲ着コトハ何レノ

烏帽子

烏帽子折

其號

無

世ヨリ始ニシルトイフコトヲ知ラズ又是武家ノ服ト見エタリ狩衣ハ公家ノ服ニテ武家ニモコレヲ用ルコト有リ布ノ直垂ニ素襖柔ニシヤカナル衣ナリシヲ今ハ布ニ糊ヲ濃クシニ風俗ノ卑劣ナルヨリ起レリ公家ノ衣モ古ハシナクヨリ糊コハニナリテ今ノ如ク剛バリタル者ニナレリトノ是風俗ノ悪キナリ中華ノ衣服ハ着タル姿打シホレタタル所モ温雅ナリ日本ノ服ハ公家モ武家モ肩ヲ從耳カ張タル姿サナガラリキミテ見ユ中華ハイフニ及ハス萬國中ニ箇様ノ體ハ見エズ是中古以來風俗ノ汚レル故ナリ又異國ノ服ハ古ヨリ衣裳ノ制ニテ腰ヨリ上ヲ衣トイヒ腰ヨリ下ヲ裳トイフ衣ト

是

是風俗

畫圖ニテ見

從耳カ

中ニ箇様

汚レル故ナリ

衣裳トイフ衣ト

裳トヲ腰ニテ綴ツ合セタルヲ總トジテ衣トイフ僧家ニ直綴チキトツトイフ者ノ
如シ衣ノ内ニ袴ハカマヲ着ルコトハ無シ袴ハ舞樂マユガクヲ奏スルニ舞人マヒトノ着
ル者ナリ舞ハ袴ヲ着ザレバ不便利ナル故ナリ袴ハ本層モト肩ハタニ着ル者
ニテ常ニコレヲ犢鼻トクビ禪ゼントイフ人ノ膝蓋ヒザガシラヲ犢鼻トクビトイフ人ノ犢鼻トクビニ似
タル故ナリ禪ハ袴ナリ犢鼻トクビヲ蔽カクス袴ナル故ニ犢鼻トクビ
ノ世俗ノハダ帯ナリ日本ノ服ニ公家モ武家モ
袴ヲ外ソトニ着ル是大ニ中華ト易カハレル事ナリ又武家ニ布ノ直
垂モ素襖モ袴ノ裾スリヲ長クスルハ指貫ササグサノ如ク膝ヒザノ下ニ素紮ソウサツ 為
ナルヲ今ハ紮サツラズシテ地上ニ曳ヒキク甚イタダ不便利ナル事ナリ固様コトサマノ事ハ皆
古ヲ忘レ本ヲ失テ誤レルナリ古ヲ好ム人ハ考ヘズハ用ルカラス

○室町家ノ末ヨリ海内戰國トナリ公家ハ弥衰ミヤウへ武家ハ亂世ノ
騷ウラガシキ中ニ生レ長ソダチテ萬事ニ簡易カンイヲ好メルヨリ章服ノ制セ毀ヤハ烏帽
子モ直垂モ廢レテ上下トイフ服ヲ用フ上下ノ起リ
割キリス去クテ留ムノ兩旁フタハラニ袷ヒタメ積メヲツケタルナリ今ノ長ナカバネ
ノ裾スリ長キヲ嫌テ是ヲ割去テ短クス今ノ半袴ハシハカマナリ去クハ麻ハ固
キヲ嫌テ裏ヲ附ク今ノ裏附ウラツケ上下ナリ箇様コトサマ
ノ通服トナリ上ハ王公ヨリ下ハ庶民ニテ是ヲ以テ禮服トイフ凡古ヨ
リ人ニ衣服ノ制アルハ貴賤ノ品ヲ別ツベキ為ナルニ今人禮服ハ貴賤
ノ差別ナケレバ章服トイフ者ニ非ズ今ノ世ニ王公貴人ヲ路次ニテ
觀レバ從者シウシヤ多ク輿馬ヨバノ飾カザリモ美麗ナル故ニ真ニ富貴ノ人ト見ユレ

トモ朝廷ニテハ輿馬モ無ク從者モ離ルレバ只一人ナリ此時ニ觀
レバ大國ノ君モ小國ノ君モ卿大夫モ執政執事モ諸吏ノ賤キ者モ
農工商賈モ一同ニ上下ヲ着タルノミニテ少モ差別ナクシテ其貴賤
ヲ別ツベキ様ナシ武家ノ世トナリテ五百年來公家ノ禮ヲ用ヒ
サレトモ鎌倉ノ時ヨリ室町ノ末ニ至ルニテハ士大夫
直垂ヲ着タリ戰國以來亂世ノ風俗ニテ冠服
リシヨリ當代太平ノ人トナリテモ上モ下モ簡易ニ安^{カシイ}冠服ノ
制ヲ定メラル、政モ無ク因循シテ百年ニ及ベリ公家ノ世
及バズ武家ノ世トナリテ以來^{フカク}冠服ノ棄レタルコト當代ノ如クナル
コトハ無シクチヲシキ事ニ非ズヤ既ニ章服ナキ故ニ小袖上下ノ新^{アタラシ}

ク美麗ナルヲ見テハ貴人ト思ヒ舊ク麁^{ソコ}敝ナルヲ見テハ賤者ト
思フ是ヨリ人々新ク美麗ナル物ヲ着テ人ニ高クシトス是
奢侈ノ始ナリ凡^{オソク}制度アル冠服ハ舊クシホレタ^キ
人品威儀サモラシク見ユル者ナリ冠服ニ非ズシテ常ノ衣服ノ
麁敝ナルヲ着タルハ威儀モ成ラス不恭ニ見ユ
今ノ世
ニ公家ノ貧キ人ヲ觀レバ舊キ衣冠ノ敝レタルコト^{レトモ}其ハ
品貴ク見ユルハ身ニ章服アル故ナリ凡人ハ首ニ冠ヲ着ルベキ
者ナリ雉雞ハ鳥ナレトモ冠アリ人ハ萬物ノ中ノ貴キ者ナレバ頂^{イタダキ}
ヲ露スニシキ為ニ冠ヲ着ルナリ異國ハ勿論ナリ吾國ニテモ公
家ノ世ヨリ武家ノ世ニ及ブニテ冠鳥帽子ヲ脱タルヲ^{オホ}大童ト

名ツケテ甚シキ不恭トシ大ナル耻トせリ譬へハ人ノ赤裸ナルヲバ
必コレヲ笑フガ如シ冠烏帽子ヲ脱タルハ首ヲ裸ニスルナリ首ハ一
身ノ上ニ居テ至テ尊キ者ナリ是ニ服ナカルベキ様ナシサレハ人トシ
テ冠ヲ着ザルハ夷狄ノ俗ナリ

文廟ノ時武家ニ冠服ヲ制シテ平日ニ烏帽子
トノ旨アリシト聞ユ其時士大夫ノ中ニテ大ニ不届
ト思ヘル者多カリ是流俗ノ習ニ染テ人情ヲ知ラズナリ人情貴
キヲ好マヌ者ハ無シ其人品ノソレト見ユルヲ悦バヌ者ハ無シ
上下ヲ着タルバカリニテハ貴キモ賤キモ別レズ其人品モソレト見ユス
若烏帽子直垂ヲモ着ルホトナレバ其爵位ノ高下モ見ユ人品モソレト

見ユベキ故ニ烏帽子直垂ノ我身ヲ束縛スルコトヲ忘テ己ガ人品ノ
ソレト見ユルヲ樂ムハ必定ナリ久シク廢レタル冠服ヲ一旦ニ興サレ
バ常ニ着ナレヌ烏帽子直垂ヲ着テ不便利ナル事
ラレタル様ニ苦ムベキガホトナク一年二年ノ後其
習ハ不便
利ヲ忘テ便利ト思フベシ總ジテ人ノ身ハ習ハ
ニモナルレバ安ンズル者ナリサル故ニ古ヨリ英雄ノ
ヲバ果決ノ心ヲ以テ遲疑スル所ナク一旦ニ改ムルナリ又直垂ヲ
着ルホトナレバ内ニ如何ナル麓服ヲ着テモ苦シカラズ故老ノ談
ニ昔直垂ヲ着タル世ニ貧士ハ内ニ色々ノ絹布ノ段ヲ綴合セ
テ着タルヲ近世其體ヲ摹シテ特ニ一種ノ絹ヲ織成テ是ヲ

士大夫ノ禮服トス。今ノシメトイフ者は是ナリト云リ。然レバ今ニモ直垂ヲ着ルホドナラハ内ニハ麗服ヲ着ルベキ故ニ奢華ヲ去テ儉素ニ歸ル道是ヨリ近キハ無シ。

○古ヨリ帝王ノ興リタヘル時ハ其代ノ初ニ必正朔ヲ改メ服色ヲ易ルトイフコト有リ。正朔ヲ改ムルトハ歲首正月

ヲ易ルトハ冠服ヲ易ルナリカクノ如ク改易スルハ

テ何事モ前代ノ制ヲ捨テ當代ノ政ヲ新クセン為ナリ。然レバ今ノ世ニモ若武家ノ冠服ヲ制セラレントナラハ古來ノ烏帽子

テ新ニ一代ノ冠服ヲ制セラルベシ。古來ノ公家武家ノ制度ヲ斟酌シテ其間ノ宜キヲ取テ如何様ニモ制作スベシ。若然ラスハ姑今ニテ

ノ烏帽子直垂ヲ用テモ其制度ヲ詳ニシテ卿大夫士庶人ニテノ階

級ヲ定ラレバ是スナハチ一代ノ冠服ナリ。制度ヲ詳ニシテ今ノ世ノ朝儀ノ時ノ裝束ニ五位以上ノ人ノ着ル大紋

ノ人ノ着ル布衣ノ狩衣モ四位ノ人ノ着ル紗ノ狩衣モ諸士ノ着ル素襖モ皆色ニ定メレル制ナキ故ニ紫緋ノ外ハ

ヲモ用ル是麗略ナル事ナリ。異國ニテハ衣ノ色トナ

ノ官人ノ一品ヨリ九品ニテノ階級ヲ立ル故ニ朝廷ニモ路次ニテモ遙ニ看テ其人ノ何ノ官何ノ位トイフコトヲ知ル是章服ノ本意

ナリサレバ今ノ世ニモ狩衣直垂素襖ノ三等ノ服ニ各其中ニテ色ト文彩トヲ數多ニ別テ其官其職ニ隨テ色ト文彩トヲ定テ私

ニ其制ヲ變セサル様ニ有ルベシ又布ノ直垂ト素襖トハ麻ニテ作
ル者ナルヲ今ノ如クニ糊ヲ剛クシ板ノ如クニテハ身モ一キハ縛ラレ
タル様ニテ賤ク不便利ナリ損敗スルコトモ速ナレバ僧家ノ麻衣ノ
如クシナヤカニスベシ袴ノ裾ヲ地ニ曳クハ甚不便利ナル事ナレバ指
貫ノ如クニ膝ノ下ニテ紮ルベシ又素襖ハ士庶久ノ
襖ニハ麻ヲ用ルコト勿論ナリ士ノ下ハ吏卒ヨリ
テモ素襖ヲ着ルベキ者ハ綿布ニテモ作ルベシカク如ク制度ヲ立
テ色ト文彩トヲ以テ爵位ノ等級ヲ差別セバ昔ヨリ有也 烏
帽子直垂素襖ノ類ヲ用テモ一代ノ冠服ハ制セラレ事ナリ今
ノ世モ烏帽子直垂ヲ全ク用ヒサルニモ非ズ宗廟朝廷ト大禮ニ

ノニ是ヲ着ルコト有テ常ニコレヲ用ヒズ只貴賤一同ニ上下ヲ着ル
是章服ヲ廢スルナリ大禮ニ烏帽子直垂ヲ着ルモ唯日級羊ナラ
サル故ニ章服ノ本意ヲ盡サズ是恨メシキ事ナリ
○刀ヲ佩ルモ章服ノ一ツナリ公家ノ服ニハ武職
佩テ文職ハ刀ヲ佩ビズ武家ノ人ハサシゾヘト名
ニ插シ別ニ大刀ト名ツケテ長キ刀ヲ佩ブ殿上ニ
ス大刀ヲ佩ルコトヲ得ズ今ノ世モ然ナリ但今ノ
庶人奴僕ノ輩ニテ刀ヲ插ス釋氏ノ徒ニテ從者ニハ必刀ヲ插サ
シムルは無用ノ事ナリ凡刀ハ士人ノ佩ル者ナリ士人ニ非ズシテ
刀ヲ佩ル何ノ用ゾヤ士人モ衛士トナリ或ハ儀仗鹵簿ニ列スル

二ハ兩刀ヲモ佩ベキガ左モナクテ平日ニ兩刀ヲ佩ルコト無用ナリ短
キサシヅヘニテ事足ヌヘシ昔ノ插副トイフハ今ノ世ノチイサカトイフ
者ナリ今ノ俗間ノ刀トイヒ脇插トイフハ近來ノ俗制ニテ古制
ニ非ズ若今ノ世ニ章服ノ制度ヲ立ラレンハ士人ハ
庶人工商ハ短キ刀ヲモ佩ルコトヲ得ザルベシ
ヲモ佩ザルベシ況ヤ僧尼ノ從者ハ聊モ刀アル物
不今ノ士人平日ニ兩刀ヲ佩ルダモ無用ノ事
佩ルハ殊ニ無用ナリ庶人工商奴僕ノ刀ヲ佩
○武家ノ世トナリテヨリ以來ハ海内ノ人武ヲ尚フ風トナリ何事武
家ノ人ノナスワザヲ見テコレヲ學ブ公家ノ人モ漸ク古來ノ皇朝

ノ文雅ナル風ヲ忘テ只管ニ武家ヲ學ブ今ノ公家其身ニ冠服ヲ
着レドモ輿馬從者ハ悉武家ニ効テ武家ト爭テ馳驅ス是其本ヲ
忘タルナリ武家モ昔ハ冠服アリテ容儀好カリシニ
ニ容儀古ニ及バズ然ルニ公家僧家ノ人は是ヲ子
ニ學ブハ何ゾヤ其心ノ鄙俗ナルコト一笑ニ餘レリ
儀則トナル武家ナレバ如何ニモ冠服ヲ制シテ
者ナリ

○凡人ノ形容ハ畫圖ニ入ベキ者ナリ中華ハイニ及日本ノ人
モ公家ノ形ハ畫テ觀ナリ武家モ鎌倉ヨリ室町ノ末マテノ人ハ
貴賤皆畫ニカナル戰國以來當代ノ武士ハ甲冑ヲ着タル體

長七

ヨロヒ

ノニ畫ニカ、ル平日ノ上下ヲ着テ跪ケルタル體ハ決シテ畫圖ニ入ラズ爵位ナキ士庶人モ有徳有名ノ者ハ真像ヲ畫テ後世ニ遺スベキ者ナルニ畫圖ニシテ觀ルベカラヌ躰ナル淺クシク觀テシキ事ナリ然レバ國家ニ冠服ノ制ナキハ其害多端ナリ願クハ今ニモ武家ノ冠服ヲ制セラレバ海内ノ人ノ大慶ナル

儀仗 附鹵簿

儀仗ギチャウトイフハ儀ハ威儀ナリ儀則ナリ儀式ナリトイフハ朝廷ヲ衛ルニ種々ノ兵器ヲ置キ武士諸ヲ戒ムルナリ又天子諸侯出行シタラニ武士諸卒種々ノ兵器ヲ持テ扈從スルヲモ儀仗トイフ又コレヲ鹵簿トイフ中華ノ儀仗ハ歷代其

制アリテ其代ノ國史ニ見ユ吾國ニテ公家ノ時ノ儀仗ハ格式等ノ書ニ見ユトイヘドモ今其制ヲ詳ニ知レル人ナシ今ノ公家ハ衰微ノ後ナレバ古制ヲ失ヘルコト多カルベシ縱古制ヲ存スハサルベシ武家モ鎌倉室町ノ制ハ詳ナラズ當代儀仗ノ制立タズ今ノ儀仗ハ弓矢鳥銃槍棒キウヤウニウシウチウバウ弓矢鳥銃ハ諸門ノ衛所ニ陳ヌルト遠方ノ征々シムルトノミナリ都下ノ出行ニハ

國家トイヘドモ弓矢鳥銃ヲバ持タシメラレズ諸侯以下ハ皆持タシムルノミナリ偃月刀ハ諸侯モ特賜ニアラサレハ持タシムルコトヲ得ズ槍モ一枝ヲ持タシムルハ常ナリ二枝三枝ヲ持タシムルハ皆特賜ナリ特賜ト

ハ其人其家ニ限テ別ニ許サルナリ是當代ノ法制ナリ中華ニテ
ハ天子ノ儀仗ニ旗ヲ建ツ旗ノ類ニ種々ノ制アリテ其名モ別ナリ
行幸ニハ音楽ヲ路次ニ奏ス路次ニ奏スル樂ヲ鼓吹トス公卿大
夫モ儀式ノ出行ニ旗ヲ建鼓吹ヲ用フ朝鮮琉球ノ人ノ來聘スル
時ノ儀仗中華トハ異ナルベケレドモ皆中華ノ餘風

ハ天子諸侯ノ使者ハ節旄トイフ物ヲ持ツ旄牛

竹ノ節ノ如クニツナギテ竿ニ繫テ持ツ路次ニテ

子諸侯ノ使者トイフコトヲ知ラシムベキ為ナリ使節

使ヲ節使トイフモ節旄ヲ持ツ故ナリ異國ニテハ箇様ニ事ハノ

上ニ文物ヲ具スル故ニ行路ノ間ニテ遙ニ看テモ其人品ヲ知テソレ

くノ禮義ヲ行フ輿馬ノ飾モ天子ヨリ以下爵位ノ品ニ隨テ階級

アリ人ノコレヲ見テ其人品ヲ知ルベキ為ナリ此方ニ箇様ノ文物ナ

キ故ニ路次ニテ諸侯以下ノ人ノ貴賤ノ品ヲ別ク

ノ鞞ヲ見テ誰某トイフコトヲハ識レドモ數百千ノ

ルコトモ難キ事ナリ縱コレヲ識テモ其人ハ何ノ位

イフコトヲハ知ラス是ニ因テ其富貴ヲ人ニ知ラシメン

ノ數ヲ多クシテ大道ヲ塞グハカリニ充滿シテ行路ノ妨トナルヲ顧ミ

ズ衣ヲ褰テ臂ヲ露シ臂ヲ掉リ足踏シテ螳螂ノ怒ル狀ノ如

クナルヲ美ナル事ト思フ此國ニテモ公家ノ世ハ勿論ナリ武家ノ世モ室

町ノ末ニテ烏帽子直垂ヲ着タリシ時ハ箇様ノ事ハ有ルベシトモ思ハレズ

六國ニテ

ノ尾ヲ

土見ニモ天

鞞ヲ悉識

職ソ

官ニ從者

顧ミ

如

室

ハレズ

戰國ノ餘習トハイヒナカテ、國家ニ制度トイフコト有ラバカクノ如ク
ノ風俗ハ出来ルニジキニ制度文物ナキヨリシテ、卑賤ノ者ノスルワサヲ王
公大人モコレヲ賞翫シテ、文ニモ非ズ武ニモアラサル事ヲ好ミ、樂公淺ニ
シキ風俗ナリ、若此風ヲ改テ古ニ復サントナラバ、儀仗、鹵簿ノ制ヲ
立文物ヲ作り出サズシテハ、此弊俗改メカタカルヘシ

○當代諸侯ノ外ニ、國家ノ大臣トイフハ、執政
ノ宰相參政ニ當ル者ナレバ、都下ノ路次ニテモ、執政
事ハ執事ト見ユル様ニアルベキ者ナリ、然ルニ諸侯ノ由
政執事トナリヌレバ、却テ鹵簿ノ飾ヲ去ルタトヘバ、今ツ武家ノ鹵
簿ニ長柄ノ雨傘ヲ持タシムル常ナリ、雨傘ニ衣ヲ衣スル者ナリ、衣ヲ

衣セサル有リ、衣ヲ衣スルヲ飾トシ、貴シトス、諸侯ノ中、昨日一テ
雨傘ニ衣ヲ衣セタルガ、今日執政執事ヲ命セラレ、傘ノ衣
ヲ去ル、是何ノ為ゾヤ、貴官トナリテ驕ヲ止メ、謙退ヲ示スト、其
理アル様ナレドモ、傘ヲ持タシムルモ、傘ニ衣ヲ衣スルモ、皆車版ノ裝ニテ
其爵祿ニ附タル儀仗ナレバ、是ヲ以テ謙退ヲ示ス、非ズ國ノ大
臣ハ、何クニテモ大臣ト見ユル様ニ有ルベキ者ナレバ、常
大抵黑色ノ衣ヲ衣スルヲ、執政執事ハ、其色ヲ異ニシテ、紫、緋等ノ
色ヲモ用フベキ義ナリ、此一物ニ限ラズ、他事モ皆然ナリ、異國ノ事
ハ姑置ク、吾國ニテ公家ノ大臣ニ、兵仗ノ宣旨トイフコト有テ、大臣
ハ隨身ヲ從フル禮ナリ、隨身ハ弓矢ヲ持テ扈從スル者ナリ、是大臣

ヲ重シジテ此儀仗ヲ賜ハルナリ然レバ今ノ世ニモ執政執事^等ノ大臣
ニ他人ノ儀仗ニ無キ物ヲモ加ヘテ持タシメラルヘキ者ナリ執政ノ外
ニモ彦根侯ノ如キハ開國ノ元勳ニテ今ニ至ルテ爵位^モ貴キ人ナ
ル儀仗ハ却テ他ノ小侯ヨリモ少シ是道理ノ明ナラヌ事ナリ

○今ノ鹵簿^ハニ夾箱^{トイフ}器^{アリ}近世ノ制作ナリ始板^ニ

片ヲ合セテ衣服ヲ夾テ持セタルヲ不便利ナリトテ^{相トナシテ}木

ニテ貫^{ツラヌキ}テ荷フ今ノ夾箱ナリ本俗間ニテ私^テ制^ニ他物^{ナラ}今ハ

國家ノ鹵簿ノ列ニ入テ金銀ヲ以テ飾^シ或ハ文彩^ヲ口^ニ其

數モ一ツヨリ三ツ四ツニ至ル或ハ從者^ノ先^ニ在リ或ハ從者^ノ後^ニ

在リ此一物ニサ^ニぐノ法式アリ武家ノ器ナルヲ今ハ公家ノ人モ

是ヲ持タシムルハ流俗ニ化セラレタルナリ

○前ニ云ル如ク人ハ本^{モト}保^イ虫^{ムシ}ナル故ニ衣服ヲ以テ膚^ハ蓋^フ首^ニニハ

冠^カ帽^{バウ}アリ足ニ屨^{クツ}アリ身體ハ衣服ニテ裹^ツム裹^ム又^ハ冨^ハ冨^ハ冨^ハ

腕^{ウデ}ハカリナリ一身ノ内ニテ面ト手腕トヲ露^{アラハ}ス夕^ハ首^ノ衣服^ニテ

裹^ムム是聖人ノ教ニテ禮義ノ道ナリ日本ノ人モ^ハイ^フニ^及

ハス武家モ前代ニテ烏帽子直垂ヲ着^キタリシ時ハ^ハイ^フニ^及

無カリシトイフ其時士大夫ノ間ニテ或ハ出テ畋^テ獵^シ或ハ騎射^ヲ

習^ヒ或ハ平日ノ歩^行ニ袴^ノ裾^ヲ褰^ケレハ必^ズ行^ハ膝^ヲ以^テ足^ヲ脛^ヲ裹^フ

ム是膚ヲ露^スシ^キ為^ナリ古ノ禮義ノ遺^レル温雅^{ナル}風^{ナリ}今ノ儀

仗ニハ士大夫モ袴ノ裾ヲ高ク褰^テ髀^{ヨリ}下ノ露^シ奴^隸ノ輩

ハ腰ヨリ下ヲ露ス人身ノ中ニテ臀ハ至テ不淨ナル處ナルヲ是ヲ露シテ貴人ニ示ス殊ニ昇夫ハ輿ノ前後ニ在ル者ニテ前ニ在ル者ハ臀ヲ輿中ノ人ノ面前ニ當ツ輿中ノ人輿ノ窓ヨリ見守ル者テ穢ハシトモ思ハヌハ如何ナル習俗ゾヤツクぐ思ハ嘔吐スヘキ事ナリ倭奴ノ風俗トハイヒナカテ前代ニテハ箇様ニ及テカクノ如クノ醜態ヲ見ハスクチヲシキ事ナリ日本ノ古ハ東夷ノ風ニテ冠服モ無カリシニ中古以來中華ノ禮義ヲ學文冠服ヲ制作シ公家ノ裝束文雅ナル風トナリ武家ノ世上亦舊ハ冠服ノ制モ易リヌレトモ室町ノ季ニテハ古風モ遺有シト見ユ今ニ及テハ中古以來ノ冠服ノ制失セハテ臀ヲ露ル風トナリ倭奴ノ本相ヲ異國ノ人ニモ視スルハタチヲシキ事ノ至極ナリ是皆冠服ヲ廢セルヨリ起レル事ナリ

○諸侯以下ノ人都下ニテ平日ノ出行ニ鹵簿行列ニ左右兩行ニ過ベカラサル義ナリ今諸侯以下ノ行列ヲ先ダテニ行ニ排列スルコト軍旅ノ陣列ノ違ヘリ且行列ノ間ヲ闊クシ歩士以下奴隸ノ手ヲ展テ高ク掉リ足ヲ舉テ地ヲ踏ミ旁無入ナリ身ヲナス廣ニ路ニテモ人ト相軋ル増テ狹キ路ニテハ行人妨ナル殊ニ大國ノ諸侯ハ數百人ノ從者ヲ連テ前後數百歩ノ間ニ充滿スル故ニ行人コレガ為ニ足ヲ止テ其過ルヲ待ツ左

モアラザレハ必争鬪ノ端ヲ起シテ禍ヲ生スルコト有リ是皆禮義
ヲ外ニシ辭讓ノ道ヲ知ラザルナリ總ジテ鹵簿ニ文物ヲ制作
シ輿馬ノ飾ニ等級ヲ立テ爵位ノ貴賤ヲ知ラサル様ナレハ大
國ノ諸侯富貴ノ人モ妄ニ從者ヲ多ク具スルニ及ハス自然
ノ畏敬ヲ起ス是スナキ禮義ノ教ニテ費用ヲ
スル道ナリ

○諸衛ノ士卒衛所ニテ君上若ハ官長貴人等ノ其取又過ル
ヲ見テハ士卒皆俯伏スルヲ以テ敬トス凡衛士ハ非常ノ變
ル者ナレバ俯伏スルコト有ルニシキナリ俯伏シテハ變
クルコト無シタトヘバ禁門ヲ守ルニ衛士ノ俯伏スベキホ
入セシニ萬一モ其人不軌ノ心ヲ挟テ出入スニシキ者從者中ニ

雜テ其門ヲ出入セハ守ル者誰何セスハアルベカラズ其時俯伏
シテハ何トシテカ其女ヲ見ツクルコト有ニヤ是決シテ俯伏
理ナリ凡異國ニテハ立ツヲ以テ敬トシ日本ニテハエスルヲ以テ敬ト
スル是國俗ノ易リナリ昔公家ノ世ニ吾國モ中
以テ敬トセヨトノ詔アリシ事モ有シカドモ其後此
如ク坐スルヲ以テ敬トスルコト今ニ至ルニテ易ラズ他事ハ此俗
從フベクトモ衛士ハ立ツヲ以テ敬トシテ何事ニモ俯伏スルコト有レバ
ラザル者ナリ

○昔鎌倉ノ右大將富士野ニ獵シタニヒシヲハ其圖ヲ畫ニカキテ

今ニ至ルニテ正何觀ミトス其體タイ上モ下モ裝束アル故ナリ今ノ世ノ畋獵ヂシハ畫圖ガクニ入ラズ裝束ナキ故ナリ畋獵ノ裝束ハ常ノ裝束ニハ異ナレドモソレクノ冠服アリテ膚ダクヲ露アラスコトハ無シ今ノ畋獵ニハ公卿大夫モ士卒モ一樣ニ上ニハ外グワイ套タウヲ着キ下ニハ襪ワキヲ着キルノミナリ褲子ハスナハチ古ノ犢鼻禪トクビゼンニテ異國イコク是ヲ外ニ顯スハ赤裸アカハダカナルニ同ジ義ナリ奴隸ヌレイノ士野ノ獵ノ圖ヅニハ奴隸ノ中ニモ今ノ士大夫ノ如クナル體タイ者ハ見エズ古ヲ鑑カミトシテ今ヲ知ルハ箇様ノ事ナリ

武備

武備トハ武ノ用心ウチココロコトロガケナリ備ノ字ハ戒備ト屬ツキテ事ナキ時ニ其事ノ用心ヲスル義ナリ備ノ字ヲバソナフト則スレバ事ノ来ラヌ前ニ其心アテ手アテヲナシテキ事ニ遇テ手ヲツカマ様ニ目メニ計ケルヲイフ譬たとへハ火災ノ為ニ平日水ヲ蓄タケルガ如キ是ヲ備トイフ古ノ王者ハ文ヲ右ニシ武ヲ左ニストイフ文武ハ車廢ハイスベカラザル者ナリ偏廢トハ一ツヲ用テ一ツヲ捨スルナル時ニ武ヲ忘レザルヲ賢智トイフ武ノ字ハ止戈トク為ス武ノ專センナリ止戈ノ二字ヲ合セテ武ノ一字ヲ作レルナリ止戈ハ干戈カンカヲ止ムルトイフ義ナリ兵ヲ用テ人ト戦ヒ人ノ軍ヲ破リ人ノ城ヲ攻テ人ノ土地ヲ取ル類ヲ武トハイハズ己ガ國ヲ善ク治テ鄰敵リンテキニ侵サレヌ様ニ

守リ、鄰國ニ暴亂アルヲハ兵ヲ出シテコレヲ征討シ、都テ己カ國ノ
武威ヲ四鄰ニ耀シテ、鄰敵ニ窺ハレズ人ヲ畏レシ、様ニ計ル是
ヲ武ノ本意トス、戰國亂世ニ人々武事ニ慣テ、教ヘズ學ハサレ
ドモ、其道ヲ悟リ、其法ニ達ス、旦暮ニ火急ナル事アレトモ、變ハ
スルコトモ敏速ナリ、太平久シクナリテ、海内艾安、
メ弓ヲ橐ニ韜ムヲ、目出タキ事トシ、上下安佚、
ニ耽リ、遊畋ヲ樂テ、イトナク武ヲ忘ル、風俗トナルコト古來一轍
ナリ、司馬法ニ、國雖大好、戰必亡、天下雖安、忘戰必危、
極ノ論ナリ、異國ニテ三代ノ天下ハ、聖王ノ經營シタガハル國家ナル
ニ、一世二世ノ間ニ一タビハ、王命ニ逆ラヒ、謀反スル者モ有リ、邊土ニハ

暴亂ノ國モ有テ、天子ヨリ將帥ヲ遣ハシ、軍旅ヲ出シテ、征伐シタガ
フコト、時々ニ有リ、後世ヨリ觀レバ、法令ノ粗略ナル故ト見テ、然ルニ
アラズ、是却テ聖人ノ深キ智慮ナリ、凡人ニハ外患内患トシテ、
アリ、患ハ患難ナリ、然ルニ内モ外モ患難ナクシテ安享ナレハ、聖人
ノミ然ルナリ、聖人ニアラザルヨリ以下ハ、外患ナケレバ、
所ナキ故ナリ、外患アレバ、是ヲ畏ル、ニ因テ、己ヲ慎
内患生ゼズ、此說左傳ニ見エタリ、コレヲ譬ルニ、人ノ至
養生ノ慎ナキ故ニ、大病ヲ得テ夭死スルコト有リ、小々ノ病アル者ハ
慎テ其身ヲ保護スル故ニ、却テ大病ヲ生ゼズ、命モ長キコト有ルガ如
シ、聖人コレヲ慮リタミヒテ、少ノ外患ヲ處クニ遺シタミヒ、後ノ君臣

ニ亂ヲ忘レズ武備ヲ修スベキコトヲ知ラシメタマフナリ。サレバ天下ノ甚
シク治リテ大海ニ少ノ風波モ無キガ如クナルハ却テ亂ノ近キナリト
知ルベシ然レバ國家ヲ治ムル人ハ一日モ武備ヲ忘ルルシキ者ナリ
○武備ノ要ハ卒伍ヲ定ムルニ在リ。異國ノ軍法ニ五人ヲ伍トス
ヲ什トス五伍ヲ兩トイフ兩ハ二十五人ナリ四兩ヲ卒トス
リ五卒ヲ旅トイフ旅ハ五百人ナリ五旅ヲ師トイフ
リ五師ヲ軍トイフ軍ハ萬二千五百人ナリ伍什兩ニ長ナリ伍
ハ今ノ世ニイフ五人與ナリ伍ト什ト兩トノ長ハ今ノ世ニイフ
リスナハ千同輩ノ中ニテ年ノ長セル者ヲ立ル意ナリ卒以上長ハ今
ノ世ニ者頭トイフガ如シ尚書ニ千夫長百夫長トイフ者アル是ナリ

旅ヨリ以上ニ將帥アリ古ハ寓兵於農トイヒテ農ト兵トヲ二ツニ
分ケズ兵ハ農ヨリ出ル故ニ卒伍ヲ立ルコト鄰伍ト同法ナリ鄰伍ノ法
ハ前ノ食貨ノ篇ニ見エタリ卒伍ハ軍陣ニサシカハリ俄ニク
ニ非ズ平日ニ定置ク事ナリ井田ノ法ニ五家ヲ鄰トスルハ西南北
ノ家ニ中央ノ家ヲ加テ五家ト數フルナリ然レトモハ北ト中
央トニ定レルニモ非ズ士民ノ家ハ縱ニ並ビ横ニ並
數五ツヲ合セテ是ヲクミテ鄰伍トスルナリ鄰伍ハ生ル
處ニ在テ平日親ク相語り晝夜トナク互ニ往來シ飲食聚會シ
テ相狎ルコト遠ク隔レル親戚ヨリモ睦キ者ナリ此鄰伍ヨリ軍伍
ヲ出ス故ニ軍中ニテモ相離ルコト無シ背ヨリ其姿ヲ見テモ誰某トイ

フコトヲ識リ、若ハ暗夜ニ聲ヲ聞テモ、其人ヲ識ル。戰ニ臨テモ、危キ處
ヲバ互ニ相救テ、五人ノ中ニテ敗レテ取ラヌ様ニ相助ク、平生ノ親
有ルニ因テ、外ニ看ガタキ心ノ生ズルモ人情ナリ。若五人ノ中ニテ一人
戰死スルヲ見テ救ハザレバ、四人皆斬刑ニ處ス。一人敵軍時スレバ、四人
皆同罪ナリ。箇様ニ定ムル上ハ五人ノ中ニ一人モ不
バ、五人皆其罪ヲ被ル故ニ互ニ勉勵シテ、敗レテ取
ナリ、サレバ管仲カ齊國ヲ治メシハ、卒伍ヲ定テ平日
タリ、行列ヲ立ルニモ、什伍ノ中ニテ立チ處ヲ平日ニ定置キ、某ハ某カ
前、某カ後、某カ左、某カ右ニ立ツベシトイフコトヲ知ラシメテ、一行ノ
時ハ箇様ニ行ノ時ハ箇様ニ行ニ箇様、横ニ列スルニ箇様、雁行

ニ箇様、魚鱗ニ箇様、鶴翼ニ箇様トイフコトヲ一々ニ教テサテ
事ニ臨テハ、一々旗ノ動クヲ見テモ、或ハ鼓ノ聲ヲ聞テモ、約束ノ
如クニハラクト列ヲ成シ、一言ヲモ出サズシテ、將帥ノ指シニ
是ヲ訓練セル士卒トイフカクノ如クナラザレバ、法戰ハトカクシ凡
兵ハ五百三百ノ小衆ニテモ、法ニテ使ハザレバ、使ハ
大衆ナドヲ使フニ於テヤ、異國ノ軍ハ法ヲ專ト
テモ、法ヲ犯シテ列ヲ亂ル者アレバ、刑ニ處スル故ニ士
ヲ守ラストイフコト無シ、然ルニ此法ノ本ハ什伍ナリ、ヨクク付伍ノ
法ヲ堅クセサレハ、軍ヲ行ルコト能ハズ。今吾國ニハ士ニ法ナシ、卒
徒ニハ伍アレドモ、五人ヲ一ツニクミタルノミニテ、行伍ノ法ヲ平日ニ定

置カズ行列ヲ立ル事アレバ事ニ臨テ有司俄^ニ兵次第ヲ作テ某^{ソレ}ガ次ニ某^{ソレ}トイフコトヲ指テ一人ツ、繰^ク出ス其^テ甚^ク煩^{ナリ}常ノ小事ハ是ニテモ辦ズベキガ大衆ヲ動カスコト能ハズ况ヤ軍陣ニ臨テ何ヲ以テカ能ク擾亂^{ナカラシヤ}是伍法ナキ故ナリ武備ノ要ハ卒伍ニ在リト知ルベシ卒^徒ハ今ノ足輕ナリ徒ハ中^ニ○武備ノ務ハ士卒ヲ訓練スルヨリ先ナルハナシ既^ニ上ニ平日ニ士卒ヲ訓練スル是古来ノ大法ナリ訓ハフルナリ練ハ練熟ナリ子ルナリ士卒ヲ訓練ストイフハ一^ツ段ニ云ル習ハシニ一ツニ坐作進退ヲ習ハスナリ行列ヲ習ハストハ上ノ段ニ云ル如ク伍法ヲ立テ行列ノ前後左右ヲ知ラシメ士卒モ一人一人ニ

己^ノカ立^テ處ヲ能ク心得テ晝ハ旗ノ手ヲ視夜ハ鼓ノ聲ヲ聽テ將帥ノ指麾ニ從テ行列ヲ縱ニモ横ニモ圓ニモ方ニモ闊クモ狭クモ大ニモ小ニモ長クモ短クモ直ニモ斜ニモ宜キニ隨テ立^テコ^ト然^レテ是タル約束ノ如ク一言ヲモ出サズシテ一身ノ手足ヲ使^フ如ク自由自在ナル様ヲ習ハスナリ坐作進退ヲ習ハストハ坐^トハ起ツナリ進ハ前^ニナリ退ハ却^クナリ進退ハ此^ノヒキナリ戦ノ道ハ坐作進退ニ在リ是モ旗ノ手^ト聲トニ應^ズジテ一^ツ隊ノ人衆一同ニ拍子ヲ齊^テ或ハ坐シ或ハ作^テ或ハ進^ム或ハ退^クコト一人ノ身ヲ動カス如ク自由自在ナル様ヲ習ハスナリ此等ノ訓練ハ將帥ノ人其麾^下ノ士卒ヲ率^テ平原曠野ニ出^テ

幾度モ教訓シシラカシ習ナラシ貫スルスルニアラザレバ、練熟ニ至リカタシ、凡戦ハ如何ナル
無雙ノ勇士アリテモ、一人ニテ敵ニ勝ツコトハ能ハズ、数百千萬人ノ衆
カヲ一ツニ合セテ、平日訓練シタル所ヲ以テ、行伍ヲ亂ラズ、進退ノ度
ヲ失ハズ、總ソウガ、リニカ、レ、過クワ當タウノ敵ニモ勝ツコトヲ得、ニ軍シサレバ、劍術
ノ類ヲバ、一人ノ敵ナリ、學ブニ足ラズト、楚ノ項羽云、
人ノ敵ナリ、萬人ニ敵スルハ、萬人ヲ使フコトヲ知ラザレ、
ヲ學ビシ故ニ、天下ノ霸王トナレリ、今太平ノ世ニ武、
ノ敵ヲバ略シテ、萬人ノ敵ヲ習ハスベキナリ、中華ニテ先王ノ四時シヲ、
タニヒシハ、民ノ為ニ禽獸ノ田ヲ害スル者ヲ除ノゾクントテ、農業ノ隙ヲ視テ
出シトフトイヘドモ、禽獸ヲ取ルヲ主トスルニハ非ズ、是、
ナリ、講、講習ニテ、習ハス義ナリ、箇様ノ次ツギテニアラザレバ、大軍ヲ郊野
ニ出シテ、行列進退ヲ習ハシ、士卒ノ勇怯ヲ試ルコトナリ、カタキ故ナリ、
蒐シウトイフコト有ルモ、人衆ヲ集テ軍陣ノ習シラセントノ事ナリ、蒐、
以後ハ、武職ニ將軍トイフ官アリ、今吾朝ノ大番、
頭カシラノ如クナル者ナリ、此將軍ハ、麾下キカノ士卒ヲ訓練ス、
ナシ、凡士卒ヲ訓練スルニハ、平日モ甲冑カウヲ着テ、
旗ヲ建タテ鼓ヲ鳴スコト、戦ニ出ルト異ナルコト無シ、凡將軍、
人モ馬モ常ニ戦陣ノ心ニナリテ、兵事ヲ忘ル、コト無シ、人ハ甲冑カウヲ
着ルコト、常ノ衣服ヲ着ル如クニ思ヒ、馬ハ甲士カフヲ視ミゴト、衣冠ノ人
ノ如シサレバ、萬一ニ不虞ケノ變アリテモ、周章カウスルコトモ無ク、其事ニ應ズ

ナリ、講、講習ニテ、習ハス義ナリ、箇様ノ次ツギテニアラザレバ、大軍ヲ郊野
ニ出シテ、行列進退ヲ習ハシ、士卒ノ勇怯ヲ試ルコトナリ、カタキ故ナリ、
蒐シウトイフコト有ルモ、人衆ヲ集テ軍陣ノ習シラセントノ事ナリ、蒐、
以後ハ、武職ニ將軍トイフ官アリ、今吾朝ノ大番、
頭カシラノ如クナル者ナリ、此將軍ハ、麾下キカノ士卒ヲ訓練ス、
ナシ、凡士卒ヲ訓練スルニハ、平日モ甲冑カウヲ着テ、
旗ヲ建タテ鼓ヲ鳴スコト、戦ニ出ルト異ナルコト無シ、凡將軍、
人モ馬モ常ニ戦陣ノ心ニナリテ、兵事ヲ忘ル、コト無シ、人ハ甲冑カウヲ
着ルコト、常ノ衣服ヲ着ル如クニ思ヒ、馬ハ甲士カフヲ視ミゴト、衣冠ノ人
ノ如シサレバ、萬一ニ不虞ケノ變アリテモ、周章カウスルコトモ無ク、其事ニ應ズ

ルコト速ナリ。是皆先王ノ講武ノ遺法ナリ。日本人俗人吾國ハ武國
ニテ武ヲ專ニ修鍊スト思ヒ異國ハ文國ニテ文ヲ專トスル故ニ武道甚
粗略ニシテ兵モ弱カルベシト思フハ愚昧ノ至ナリ。日本ハ文武ヲ分ケ
ズ士トイフ者ハ皆武士ナレドモ講武ノ道粗略ナリ異國ハ文武ヲ分
テ文士ハ文道ヲ專ニ治メ武士ハ武道ヲ專ニ治ム
ノ武事ニ慣タル躰ハ日本ノ武士ノ及ブ所ニ非ズ講
テナリ。豐臣氏ノ時日本ヨリ朝鮮ヲ伐シニ加藤清正ノ行軍等數萬
ノ兵ニ將トシテ彼國ニ渡リ平壤ニテ攻入り又朝鮮良ニ危カリ。此
使ヲ明ニ遣シテ救ヲ請フ明ノ代ハ此時萬歷年中太平ノ時ニテ天
下文明ノ世ナレバ邊塞ノ戍ヲ遣ス外ニハ兵革ノ事アリ又朝鮮ノ難ヲ

聞テ北邊ノ戍卒ノ代リテ還ル者ヲ差テ遂ニ朝鮮ノ救ハシム日本
ノ兵ハ將帥モ士卒モ亂世ニ生長シテ智謀モ勇猛モ勝レテ虎ノ如
ク熊ノ如クナル人トモナリ然ルニ明ノ戍卒ノ來救フト戰テ大敗
軍セリ是近證ナリ是ニテ中華ノ人ノ常ニ武備ヲ修スルコトハ
練スルコトヲ知ルベシ今吾國ニテモ武備ヲ修スルコトハ
置レテ忽諸スルコトハ無ケレドモ畢竟文具トイフ者ニ
ノ武藝ヲ督責セラルモ只一人ノ敵ヲ學ブ者ヲ督
法ヲ知リ將略ニ達セル者ヲ擧用ヒタニフコト無ク將帥ノ任ニ當レル人
ハ皆世祿ノ貴介公子ニテ一隊ノ人衆ヲ指麾スル道ヲ知ラズ有
司ノ試ル所モ只弓馬鳥銃ノ藝ノミニテ士卒ヲ訓練スル一事ハ東

テ高閣ニ在リ、卿大夫ノ中ニ建議スル人モ無シ、是大ナル闕典ナリ、
凡今ノ大番頭、書院番頭ノ如キハ、異國ノ將軍官ナリ、五十人ノ衛
士ハ、異國ノ羽林郎ナリ、騎郎ナリ、與力ハ、吏士ナリ、騎士ナリ、同心
ハ、歩卒ナリ、是ヲ率ル者ヲ將軍トイフ、其爵五品ヲ、
副テ其事ヲ佐ル者ヲ、裨將トイフ、又ハ校尉トイフ、六
與頭、是ニ當ル、異國ノ將軍ハ、上ニ云ル如ク、麾下ノ
外ニ出テ、行列ヲ習ハシ、進退ヲ習ハスコト、平日曰台、ナシ者、是ヲ
怠慢シテ、粗略ナルコト有レバ、罪ヲ得ル故ニ、人ノ心、
ルコト無シ、是異國ト此方ト、武備ノ不同ナリ、
ナシ者、是ヲ
其務ヲ忘
ナシ者、是ヲ

○異國ノ武備ニハ、選車徒、閱軍實トイフ事アリ、吹瓶ニ託テ行フ

事ナリ、スナハチ上ニ云ル蒐ナリ、車徒ヲ選ブトハ、車、兵車ナリ、徒ハ
卒徒ナリ、古代ハ、車戰ナリシ故ニ、軍事ニハ、車ヲ重ニス、蒐ハ時ニ車
ニ乗ルベキ者ハ、車ニ乗リ、歩卒ハ、徒歩ニテ、郊野ニ出ルヲ、將帥ノ
者コレヲ視テ、車馬兵器ノ善惡、卒徒ノ足タチノ健、ルカ、健ナラザ
ルカヲ、委ク點檢スルナリ、軍實ヲ閱スルトハ、軍事ニ、
ヲ悉出サシメテ、法ノ如ク具足全備セルカ、否ルカトイフ、
ナリ、凡武備ハ、國家ノ急務ナレバ、武人タル者ハ、常ニ軍用ニアルベキ
事ナレドモ、治レレル世ニ、久シク軍事ナケレバ、武器ノ闕タルヲモ補ハズ、壞
タルヲモ繕ハズ、軍役ノ定マリタル人馬ノ數ヲモ減ジテ、何事ゾ有ラバ、
急ニテ度セント思テ、當前ノ家事ヲ營ミ、遊宴ヲ樂テ、日ヲ暮ス、

是常ノ習ナリ古ノ人は是ヲ慮テ其失ヲ防ントテ蒐トイフ事
ヲナシテ今云フ如クノ急ナキ様ニ計レルナリ是又武備ノ所要ナリ
日本ノ今ノ世ハ百年ノ太平ニテ軍事ヲ忘レ奢靡ノ風俗ナル故ニ
祿俸アル武士モ貧窮ニナリテ甲冑ヲ典當シ他ノ式器ヲハ無用
ナリトテ斥賣スル類ノ者多シ小キ武士ハイフニ及バ
領ズルホトノ諸侯モ軍役ノ士卒ヲ畜ハズ馬ノ數ヲ
ヲ粗畧ニスルコト世上皆然ナリ賢人君子ハ治レルナ
ヲ忘レズ武備ヲ修シテ國ヲ衛ル何ゾ是ヲ忽ニセシ
ニモ古ノ車徒ヲ選ビ軍實ヲ閱スル法ヲ用テ一歳ノ内ニ幾度モ
不時ニ令ヲ出シテ諸侯以下大夫士ニテ兵馬ノ少ト器械ノ有

無トヲ點檢シテ賞罰ヲ其間ニ行ハレバ士大夫以上ノ人オノツカラ奢
靡ヲ止テ軍用ヲ心ニカクル様ニナルベシ又今ノ武士ハ一生ニ一度甲
冑ヲ着ルコト無キ故ニ甲冑ヲ着ルスベシモ知ラズ甲冑ヲ着テハ
身ヲ如何様ニ動スモノトイフコトヲモ知ラズ常ノ衣服ヲ束モ着ナ
レヌ物ヲ着テハ身ノ舉動不便利ナリ况ヤ甲冑ハ重
平日ニ着ナレズシテハ急變ノ時ニ必大ニ不便利ナル
駭キヤスキ物ニテ少モ常ニ替リタル者ヲ見或ハ物ノ音ノ喧キヲ聞
テハ必駭キ或ハノセズニヒスル物ナリ然レバ馬ニモ甲冑ノ躰ヲ見ナラ
ハセ螺鼓鳥銃ノ音ヲモ聞ナラハスベキナリ異國ノ武士ハ平日ニ甲
冑ヲ着テ戰ヲ習フ故ニ甲冑ヲハ常ノ衣服ノ如クニ思フナリサレ

ハ今ノ世ニモ武備ヲ修セラレニハ必甲冑ヲ着テ軍事ヲ習ハシム
ヘキナリ是スナチ古ノ講武ノ遺意ナリ

○昔先王ノ世ニハ寓兵於農トイヒテ兵ヲハ農ヨリ出セリ漢ノ代

ニ趙克國ガ屯田トイフ法ハ邊塞ヲ戍ル番手ノ交ニ常ニ耕作

ヲナサシメ事アル時ハ兵トナシテ用ルラ屯田トイ

タル法ニテ國家ニ便利ナル事ナル故ニ後世モ多ク

ナリ當代ノ八王子ノ千人衆ノ如キハ屯田ニ似タル者ト唐ノ代

ヨリ農ト兵トヲ分ツコト始リテ後世是ニ倣ヘリ明ノ代ニ天下ノ

民ヲ二ツニ分テ農ヲ業トスル者ヲ民ト稱シ兵ヲ業トスル者ヲ

軍ト稱ス民ヨリ軍ニ入ルコトモ叶ハズ軍ヨリ民ニ移ルコトモ叶ハズ天

下ノ人ノ種ヲ二ツニ分タル者ナリ是明一代ノ制ニテ前代ニ無キ

事ナリ總ジテ國家ハ兵賦ヲ以テ其品ヲ立ル是聖人ノ法ナリ兵

賦トイフハ軍役ナリ田地ノ數ニ隨テ兵馬ヲ出スラ賦トイ

代ノ法ニ天子ノ國ヲ萬乘ノ國トイヒ諸侯ノ國ヲ千ノ國ト

イヒ大夫ノ家ヲ百乘ノ家トイフハ車一輛ヲ乘

乗萬乘トイフハ土地ヨリ車ノ出ル數ニテ名ツケ

事アリテ軍ヲ出スニ及テハ天子ハ六軍諸侯ハ三軍トイフハ兵車

一乘ニ甲士三人歩卒七十二人輜重ヲ送ル者二十二人合セテ

百人ニ馬四匹ハ車ヲ輓キ牛十二頭ハ輜重ヲ輓ク輜重ハ此

方ノ小荷駄ナリサテ一軍トイフハ萬二千五百人ナリ一乘ノ

二

人数百々ノ内二十五人ハ小荷駄ニ附ク者ニテ戰ニ預ラザル故ニ
是ヲ除テ甲士三人歩卒七十二人都合七十五人一乗ノ士卒
ナリ然レバ百乗ニハ士卒七千五百人ナリ千乗ニハ七萬五千人ナリ
萬乗ニハ七十五萬人ナリ七十五萬人ハ六十軍ナリ一萬五千人ハ
六軍ナリ天子ノ畿内千里ノ地ヨリ六十軍ノ人無ク天子
ノ兵賦ナリ征伐ノ事ニ六軍ヲ出ス十分ノ一ナリ
國百里
ノ地ヨリ六軍ノ人衆ヲ出スハ諸侯ノ兵賦ナリ此
三軍ヲ出
スハ半分ナリ其半分ハ國ニ留テ國ヲ守ル故
伐ノ事ニ出
ス所ハ三軍ニ限ルナリ論語ニ齊景公有馬千駟云ルハスハ十
千乗ノ馬ナリ四匹ヲ駟トイヘバ千駟ハ四千匹ナリ夥キ馬ノ

数十リ齊ハ大國ナレバ左モアルベシト思ハルニ魯ノ小國ナレドモ昭
公ノ時紅コウトイフ處ニテ蒐ケミシケルニ革車千乗ヲ出セリ左傳ニ
見エタリ論語ハ聖經ナリ左傳ハ實錄ナリ何レアルハカラズ
日本ニテ如何ナル大國ノ諸侯モ四千匹ノ馬ヲ出ス
是ニテモ異國ノ兵馬ノ多キコトヲ知ルベシ人モ馬モ
ハ天地ノ常理ナリ二千年ノ古サヘ既ニ然ナレバ今
ルベシト知ルベシ日本ハ昔ヨリ唐ノ風ニ倂テ農兵ナラヒナル法ナレドモ
昔ノ武士トイフハ當代ノ武士ノ如クニ非ズ常ニ田舎ニ住テ農
業ヲ務メ今ノ世ノ有得ナル百姓ノ如シ鎌倉ノ北ノ三浦島
山等ノ輩ヲ今ノ世ノ諸侯ノ如クナラント思フハ非ナリ其世ニ

是ヲ大名ト稱セシハ在所ニ名田トイフコト有テ名田ヲ持タル者
ノ中ニテ家富ミ僮僕ヲ多ク畜フ者ヲ大名ト稱シナリ今ノ
世ニ國郡ヲ領スル諸侯ヲ大名トイフハ俗ノ誤ナリ金ノ末ニ
及ビ元亨建武ノ間ニ武家ト稱セシ新田足利ナリ一族モ皆彼
大名ノ類ナリサレバ其世ニハ百姓トイフ者皆武士ナリ
ノ出ルニ及テ兵ノ數甚多カリシナリ近世戰國トテ當リ當
代ニ至テハ武家ハ武家農人ハ農人ト分レテ農人向ニ軍
賦ニ入ラズ僅ニ只人夫ヲ出スノミナル故ニ今ノ兵ノ出ル數
甚少シ其子細ハ今ノ武士百石ヨリ五六百石ニテラ祿ヲ受レ
者ハ甲乙ナク只一人一匹ノ馬ニ騎リ槍一枝ノミナリ出ルノミナ

縦一二人ノ若黨トイフ者ヲ具スルトモ是ヲ伍ト入レサレハ
只雜兵ニ列スルノミナリ千石許ノ祿ヲ給ハル者モ僅ニ騎馬ノ士
ヲ一人モ具セバ善キ士ナルベシ此數ヲ以テ數フレ今ノ武家ノ
祿ニテ出ス所ノ人衆ノ多少悉知ラルナリ今ノ昔ノ如クメ人衆ハ決シテ出テサル事ト知ルベシ若昔ノ如ク人衆ヲ出
サントナラハ百姓ヨリ取ルベシ試ニ今ノ世ノ田祿ノ兵賦
ノ出ベキ數ヲ計ルニ東國西國田地ノ肥瘠ニ因テ人夫ノ人馬
ヲ畜フ所其多少同カラ子トモ大抵薄田ノ處ニテ言ハク田一町
ヨリ米十石ヲ收ム此内四石ヲ十苞トナシテ年貢納ル餘六
石ハ農夫ノ所得ナリ是ヲ高十石ノ百姓トイフ十石ノ百姓

ハ牛一頭カ馬一匹ヲ畜フ東國ニテハ馬ヲ畜ヒ西國ニテハ牛ヲ
畜フ三四十石ノ百姓ハ家僮四五人ヲ畜フ五十石ノ百姓
ハ甲由月ヲ着テ馬ニ騎リ槍ヲ持テ出ルコト難カラズ百石以上ニ至
テハ家僮ノ中ニ又甲冑ヲ着テ行列ニ入り軍事ニ従フベキホトノ者
一二人モ有リ然レバ地方百石ノ祿ヲ受ル士ハ己ガ兵ヲ領スルノ兵
ヲ具スベシ其身ヲ加テ三騎ナリカクノ如クナレバ百石ノ兵
兵三人出ベシ五百石ニテ十五人千石ニテ三十人萬石ニテ
ナリ薄田ノ處ヨリ出ス所カクノ如シ若沃土ナレバ此數ニ止ラズ二
十石三十石ノ百姓モ一騎ノ役ヲ受ベシ又豪富ノ民ハ一家ノ
一騎二十騎ヲモ出スベキ者アリサレバ古法ノ如クハ農ヨリ出

トハ今ノ世ニモ兵ノ出ルコト國家ノ定ノ軍役ニ幾十倍ナラントイフ
コトヲ知ラス今此法ヲ制セズシテ農ヨリ兵ヲ出サシメス兵トイフハ
只常ノ武士ナル故ニ百石ニテモ騎士一人三百石ニテモ騎士一人
五百石ニテモ騎士一人ナリカクノ如クナレバ厚祿ノ士軍役ニ
ハ何ノ益モ無シ只若黨中間ナドヲ多ク具スルニテ當
代ノ軍法ニハ若黨中間ノ輩ヲハ行伍ニ入レズ雜雑ニ當
後ニ立ルノミナレバ畢竟軍ノ用ニ立タズ是ヲ多クスコト無益ナリ
凡兵賦ハ異國ノ法ハ姑置テ日本ノ古風ヲ尋ルニ人ノ世ノ如
クニハ非ズ天地生セイノ理ニテ人モ馬モ昔ヨリ多クナルキニ兵ノ
數ハ昔ヨリ減スルコト怪ムベキニ似テ實ハ謂レ有ル事ナリ武備

ヲ修セハ是ヲ考ヘズハアルベカラズ

○異國ハ三代以前ハ車戰ナリ秦漢以後ハ騎戰ニテ今ニ至ル
テ替ラス日本ハ古來騎戰ナリシニ近代ニ及テ騎戰上テ歩戰
ニナリ又車戰モ馬ナリ騎戰モ馬ナリ軍事ニハ馬ヲ重クスル故ニ
兵ヲ主トル官ヲ司馬トイフナリ車戰ハ其法絶テ傳ハズ後世
ノ戰ハ騎戰ニ勝ルコト無シ日本ニテ近代騎戰モ盛ニテハ馬ハ
只道中ノ用ノミナリ古ヨリ弓馬ト稱シテ馬ヲ以テ
戰ノ用タルコト重キ故ナリ然ルヲ近世ノ戰ニ馬ヲ用ヒサルハ兵
法ノ本意ヲ失ヘルナリ今ヨリ以後武備ニ志アラン人若騎戰ノ
法ヲ考ヘ平日ニ士卒ヲ訓練シ人ヲモ馬ヲモ能ク習ハシテ戰

臨ニ日ニ敵人皆歩兵ニテ列ヲナサン時五十
槍ヲ持テ馬ノ首ヲ齊ヘテ馳入ラハ縱一倍ホトノ敵ナリトモ一
時ニ破ルベシ馬ノ馳ル勢ニハ歩兵一倍ニテモ抗リ
道理ノ必然ナリ然レバ向後ノ武備ハ歩戰ヲ略シ
ハスニシクコト無カルベシ

○騎馬ノ法モ養馬ノ法モ治平ノ日ト陣ニ臨ムト
アリテ同カラズ今ノ世ニハ馬ニ騎ルモ馬ヲ養フモ皆治平ノ日ノ
用ニ立テ觀ノ美ヲ務ルノミナリ若騎戰ヲナサントナラハ今ノ養
法騎法ニテハ馬モ人モ用ニ立テジキナリ

○日本ノ武士ノ風上代ハ如何アリケン考ヘガタシ中古以來ハ

武士タル者ハ皆農夫ナリ今ノ世ノ郷士トイフ者ノ如シ常ニ
郷里ニ住テ農ヲ業トシ富ル者ハ弓馬武藝ヲ一山ノ山野ニ
遊テハ禽獸ヲ逐ヒ川澤ニ入テハ魚鼈ヲ捕リ或ハ馬ヲ馳セ
或ハ水ヲ游キ險阻ヲ涉リ勞苦ニ慣テ筋骨モ固行歩モ壯
健ナリ貧キ者ハ平日身ヲ耕作ニ苦メ寒暑ヲ厭リ勞スル
故ニ如何ナル艱難ヲモ能ク忍ブ是其世ノ風也
賤キ業ナリサレハ手足胼胝シ肌膚皸裂衣シテ
行履健ナルヲ上トス今ノ世ハ武士皆世祿ニテ都下ニ聚リ居
テ數代ヲ歷ル故ニイツトナク武士ノ本ヲ忘レ心モ身モ風儀
公家上臆ノ如クニナリテ武事ノ用ニ立ベシ
ル者ハ數十

八ノ中ニ一人ナリ是唯治平ノ久シキ故ノミニ非
ル故ナリ或人ノ語ルヲ聞クニ薩摩ノ國內ニ外城トイフ者
四十八所アリテ一城ニ武士ノ數少キハ二三百多キハ
コレヲ均クシテ一城ニ五百許ナリ四十八所ヲ通
餘ノ武士アリ皆郷士ニテ常ニハ農ヲ業トス
一領具足トイフトカヤ箇様ノ類コソ古ノ武士ノ
ケレ當代ニハ八王子ノ千人衆ハカリ常ニ田舎ニ
トシ軍役ノ時ハ長槍ヲ荷テ出ルナレバ古ノ兵ヲ
法ニ似タリ千人衆ハ僅ノ歳俸ヲ給ハレトモ田舎ニ住テ耕作

ヲ事トスル故ニ生産^{セイサン}匱^{トホシ}カラズ父母妻子ヲモ優ニ養フ都下
ニ住ム同心中間ノ類ハ歳俸ノ外何ニテモ産^{ウツク}久且繁^{シク}
華ノ地ニ居テ衣食奉養奢侈ヲナシ四肢^シヲ惰^{ヲラダ}供^{ツク}ヲ常
トスル故ニ貧窮ヲ苦^{クルシ}ミテ父母妻子ヲモ養ヒカヌル者甚多^シ此
類ノ輩ハ手足モ軟^{ヤハラカ}ニ勞苦ニモ堪^タズ武夫ノ本音^{ホンネ}
ニ立ベシト思ハレズ然レバ今ノ世ニ國家ヲ經營シト
ナラバ旗本ノ諸士以下ヲ悉^{ツク}二十里ノ内ノ田舎ニ居
衛卒^{ヱソウ}ヲハ一歳ニ三旬五旬ホドノ日數ヲ定テ東都ニ在番セシメ其
餘暇ニハ在所ニテ農業ヲ務メ弓馬武藝ヲ習ヒ射獵^{サツ}釣^{ツク}金^{カネ}ニ
遊樂^{ユウラク}シ郷士ノ風ヲ學ハハ五三年ノ内ニハ筋骨^{クツボネ}ニ
力^{チカラ}ヲ失ヒ行履^{コト}モ

健^{ツヨク}ニナリ公家ノ如ク婦女ノ如クナル風儀失^ウセテ武士トナル
ベシ左モアラハ縦^{タテ}武藝ヲ習フコト粗略^{ソボク}ナリトモ今ノ武藝ヲ盡^{ツク}シ
タル士ヨリモ勝^{マカ}ル處アルベシ是武道ヲ古ニ復^{カヘ}ス術ナリ又ハ武夫
ノ貧窮ヲ救^{スク}フ道モ是ニ過^ヒルコト有ルベカラズ
○百工ハ國ノ寶ナリ古ヨリ國家ヲ經營スル人
務トス武備ノ為ニ百工ノ軍器ヲ作ル者ヲ數多^{オホク}ク
ノ事起^アレル時ハ鄰國ノ通路モ絶^ツエ百工ヲ招クニ由^ユナラズ其
時ニ攻戰^{コウセン}ノ器械^キヲ修理シ城郭ヲ築^{キツ}キ舟車ヲ
繕^{ツク}ヒ兵刃^{ヘイビン}ヲ礪^{ダウ}グ類ノ事常ノ人ノ能ハサルトコロソハ
テハ叶^ハハズ常ニ其國ニ畜^{ヤキヒ}置クニアラスシテハ軍用辦^{ハン}シガタカルベシ

是亦武備ノ一事ナリ、今ノ諸侯ニモ能ク百工ヲ集テ常ニ畜
置テ國アリト聞ケリ、何レノ國モ然アルベキ者ナリ、

○前ノ官職ノ篇ニ云ル如ク、百官ノ事ハ專ナラサレバ治ヤズ中ニモ
武事ハ一ツニ統ル所ナクテハ法令立カタクコト必^ス定^ルリ百官ノ職
事ヲ細ニ分ルコト姑^ニ置テ文武ノ職ヲ正^スク
代ノ諸役ニテイヘバ大番頭以下弓鳥銃ノ頭者
者ノ類ハ皆武職ナリ此等ノ諸役ヲ一ツニ統^ステ執政ノ中ニテ
一人コレヲ領ジ執事ノ中ニテ一人コレヲ佐ケ凡^ソ武備軍用ニ係ル
政事ヲバ此二人ニテ掌ラハ是スナチ古ノ大司馬小司馬
如クナラバ法令一致^シテ武備モ修^ムルベシサ^レ此司馬ノ職ヲ

命ゼラレンニハ必兵法ヲ學習シ將略アリテ武ヲ好^ム
ベシ諸侯ノ國ニテモ大夫ノ中ニ武事ヲ主トル者ヲ一人定テ專^ニ
武職ヲ務シメ凡^ソ武事ニ係ル役ノ者ヲ悉^ク其支配ニ付^テ他事ニ
預ラズ一國ノ武事ノミヲ掌ラシメバ武備修^リ軍用辦^ズベシ今
ノ如クニテハ吾國ニ武備全シトハイヒガタシ
○子貢政ヲ問シ孔子答テ足食足兵トノク^テ武ヲ以
テ守ル者ナレバ兵ニ不足ナキ様ニ治ムルハ政ノ肝^{ナリ}コト勿論ナリ
然レドモ食^ハナクテハ兵^モ蓄^ラズ是食^ハ又兵ノ本ナリ^ト食貨
ノ政ヲ修シテ國ヲ富^トスコト武備ノ先務ニテ經濟ノ一大事ナリ

經濟錄卷第七終

